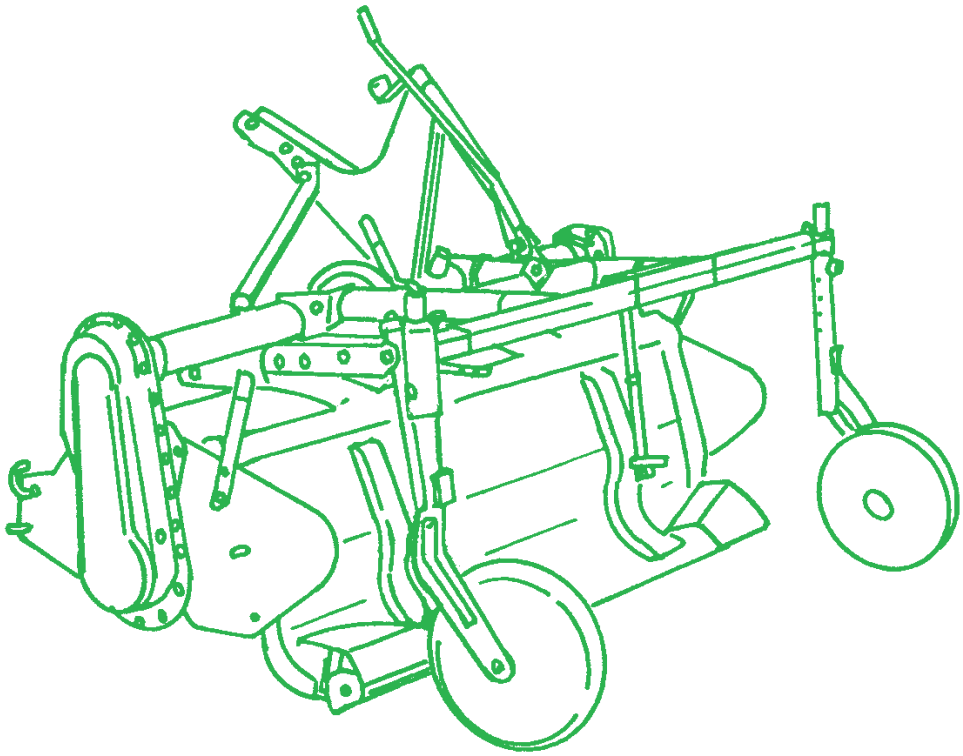
# ロータリ

# 取扱説明書

## R1532HR5
## R1532HR6



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

# このたびはロータリをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

## ●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠警告 | その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠注意 | その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

## ●機械の使用目的について

・機械は耕うん作業，代かき作業，うね立作業又は農業用作業機を装着しての農作業に使用してください。
・この作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象になりません。（詳細はトラクタの保証書をご覧ください。）

# こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次の通り構成されています。まず基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。また，あわせてトラクタの「**取扱説明書**」をお読みください。


ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

このロータリはトラクタに装着して作業を行う機械ですのでトラクタの「**安全作業のために**」の項に機械の安全な取扱いに関する基本事項，また機械に貼付けてある安全に関する表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。ご使用まえによく読んで理解し必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに ①**

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき ④**

機械の主な名称について説明し，各装置の取扱いを説明しています。

● **ロータリの作業を行う前には？** **作業まえの準備 ⑤**

**作業前の点検**：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。

**ロータリの取付け・取外しのしかた**：ロータリの取付け・取外し等のしかたを説明しています。

● **ほ場作業を行うには？** **作業のしかた ㉗**

作業方法と作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた ㉚**

機械をつねに正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。必ず実施してください。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置 ㉞**

異常を感じたら，すぐ原因を調べ処置してください。

● **主要諸元・主な消耗部品・潤滑油等は？** **付　　表 ㊱**

# もくじ


**安全作業のために**……(安-1)～(安-5)

(安全作業説明編)

**ご使用まえに**……1

1．保証とサービスについて…… 1

2．仕様（装備）について…… 2

1．ロータリの仕様と適用トラクタ…… 2

2．ロータリの種類について…… 2

3．用語について…… 3

**各部のはたらき**……4

1．各部のはたらき…… 4

**作業まえの準備**……5

1．作業まえの点検…… 5

2．ロータリの取付け・取外し…… 6

1．３点リンクの装着…… 6

2．ロータリの取付け…… 8

3．ロータリの取外し……10

3．スーパーヒッチへの組替え……10

4．PAC車・JAC車の取扱い ……12

1．MT266･286･306･336, MT271･291･311･331の場合…12

2．MT337, MT338, GX34の場合 ……15

5．MAC車の取扱い ……17

1．機能……17

2．取扱いかた……17

3．ハーネスの取付け・取外しかた……17

4．MAC車ロータリ……18

5．耕深センサロッドの調整……19

6．耕うん爪の取付け……20

1．爪の取付け……20

2．爪の配列……21

7．ロータリ各部の取扱い……22

1．正転・逆転耕うんの切替えかた……22

2．前部ゴムカバーの上げ・下げ調整……22

3．フォークの取扱い……23

4．尾輪の取扱い……23

5．加圧ロッドの取扱い……23

6．ツールバーの取扱い……25

7．リヤカバー(左/右)の取付け･取外しかた…25

8．延長レベラの使いかた……26

9．尾輪解除装置の取扱い……26

**作業のしかた**……27

1．ロータリ耕うん法……27

1．隣接往復耕……27

2．一本おき往復耕……27

3．旋回（方向転換）方法……27

2．ロータリうね立て作業……28

1．うね立器の取付けかた……28

2．作業要領……29

3．うね立器の取外しかた……29

4．うね立て耕法……29

**手入れのしかた**……30

1．定期点検整備……30

1．定期点検整備表……30

2．点検・調整個所……31

2．給油・注油・給脂のしかた……31

**不調時の処置**……34

**付表**……36

1．主要諸元……36

2．主な消耗部品……37

3．潤滑油について……37

（安全作業説明編）

# 安全作業のために

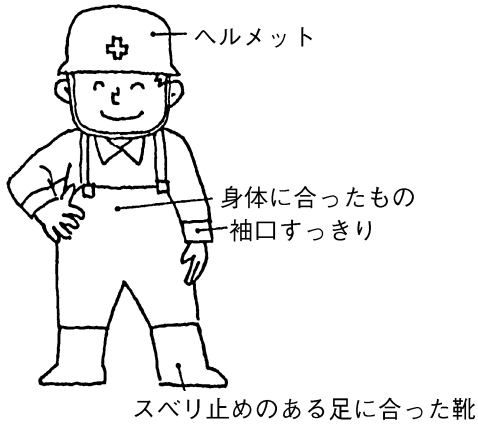
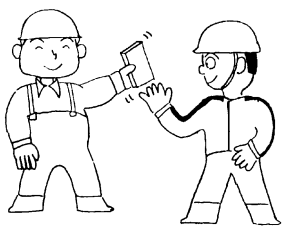
ページ
1．安全作業のしかた……（安ー1）
2．表示ラベルについて……（安ー5）

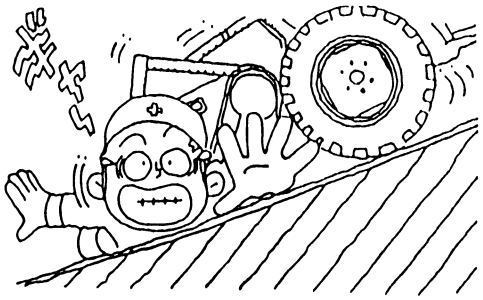
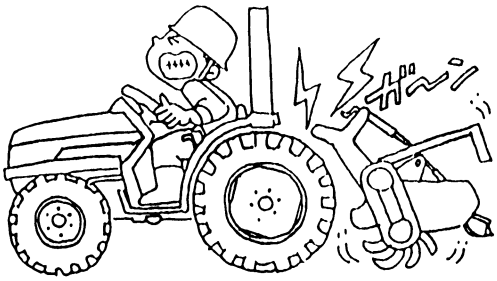
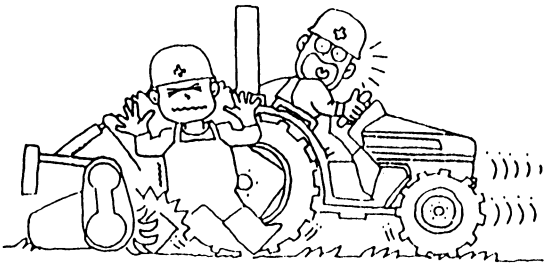
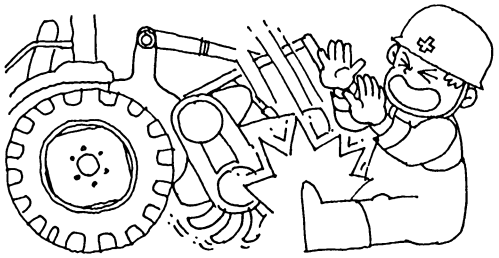
# 安全作業のために

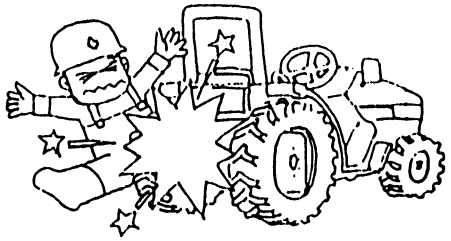
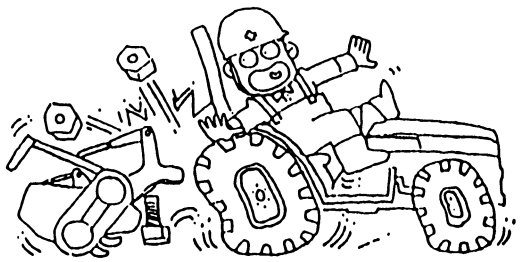
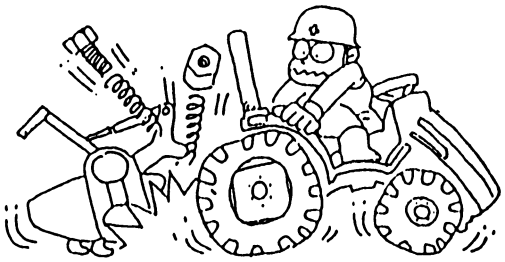
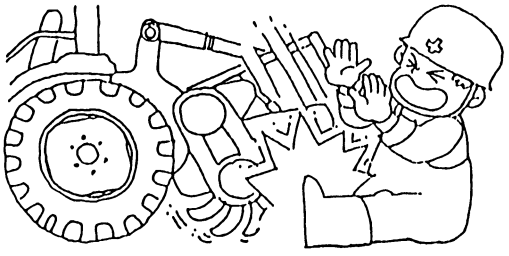
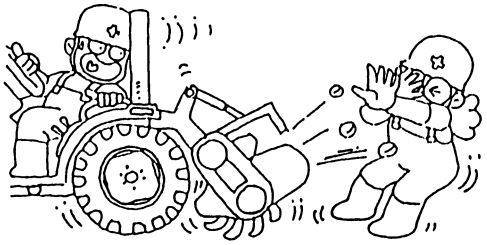
## 1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

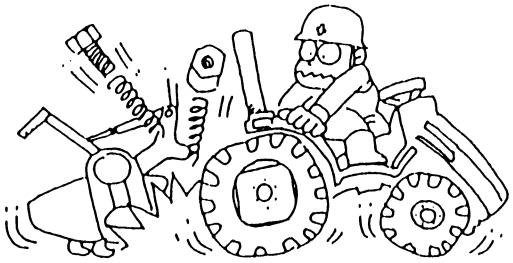
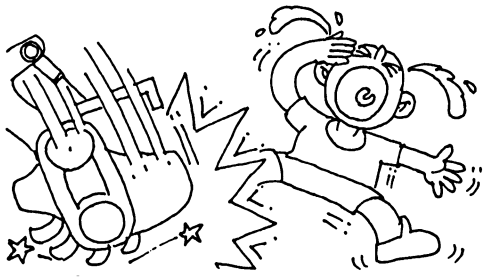
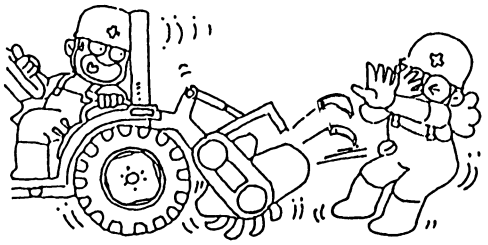
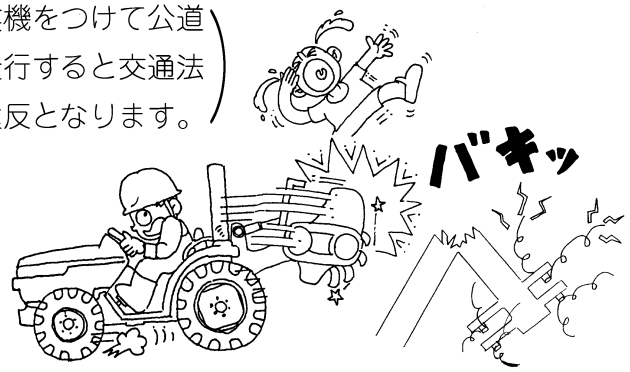
・なお，この項で説明している安全説明は**ロータリ全般**についてのものです。合わせてトラクタの「**安全作業のために**」もお読みください。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

| 必ず守ってください | 守らないとこんな事故が！ |
|---|---|
| ⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。<br>● 酒気をおびた人<br>● 妊娠している人<br>● 16才未満の人<br>● 指導者のいない運転未熟練者<br>● 過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人<br>◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。 | 思わぬ事故を起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。<br> | このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。<br> | 借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。<br> |

| 必ず守ってください | 守らないとこんな事故が！ |
|---|---|
| ⚠警告<br>◆作業機を着脱する前に，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。<br>●着脱は平坦な場所で，地盤のしっかりしたところで行う。<br>●夜間は適切な照明をする。 | トラクタが動き出したりして，思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。<br> |
| ⚠警告<br>◆トラクタに適合した作業機を装着してください。<br>●吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。<br>●左右のチェックチェンを調整し，作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。 | 思わぬ事故を引起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告<br>◆作業機の着脱で２人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。<br>◆スーパーヒッチで作業機を着脱する時は周囲を確認し，トラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。<br>●トラクタを移動して作業機の着脱する時は，トラクタと作業機の間に進入しない。<br>●装着は手順通り正しく行う。<br>●確実に装着して，ピンに抜け止めピンをする。<br>●作業者以外の人を近づけない。<br>◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。 | 機械にはさまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。<br><br>作業機を上げたままで調整を行うと，トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり，傷害事故を引起こすことがあります。<br> |

| 必ず守ってください | 守らないとこんな事故が！ |
|---|---|
| ⚠警告 ◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。<br>●安全カバーの回り止めをする。<br>◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。<br>●ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。<br>●ヨークはトラクタ中心からずれないように装着する。 | 巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。<br><br>作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。<br> |
| ⚠警告 ◆各部のボルト，ナット，ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。<br>●ボルト，ナット類，耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば，直ちに締める。 | 作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。<br> |
| ⚠警告 ◆作業機の下へもぐったり，足を踏込んだりしないでください。 | 何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告 ◆点検，調整時，爪交換時などに外したカバー類は，すべて元の位置に正しく装着してください。<br>●ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。 | 機械に巻込まれたり，泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。<br> |

| 必ず守ってください | → | 守らないとこんな事故が！ |
|---|---|---|

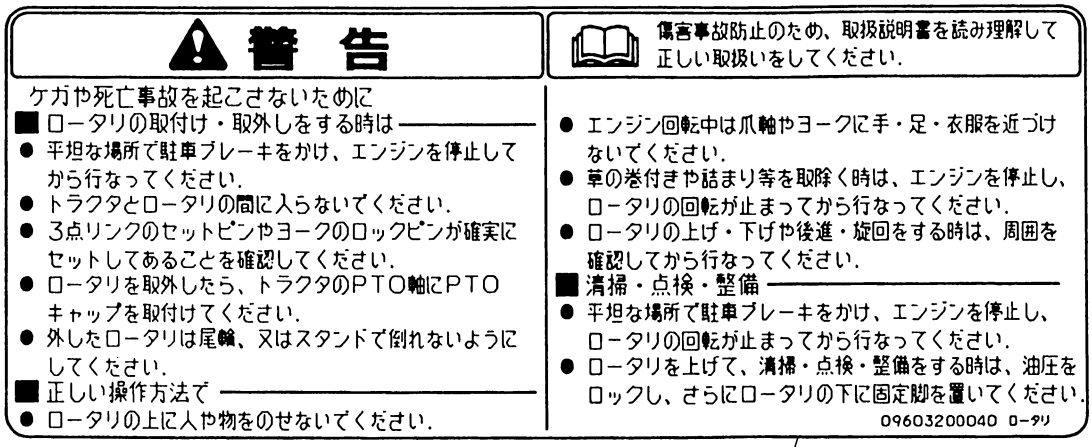
| | |
|---|---|
| ⚠警告 ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。 | 作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。<br> |
| ⚠警告 ◆作業機を上げて点検する時や，草・ワラの巻付を除去する時は，油圧の降下速度調節グリップを「固定」の位置にしてください。さらに不意にロータリが下がらないようロータリの下に固定脚を入れてください。 | 何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告 ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は，メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。 | 確実に締付けないと，作業中に爪が抜けてとび，傷害事故を引起こすことがあります。<br> |
| ⚠警告 ◆公道を走行する時は作業機を装着しないでください。 | 思わぬ事故を引起こすことがあります。<br>（作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。）<br> |

# 2. 表示ラベルについて

この機械には安全な取扱いかたについて説明している「**表示ラベル（警告ラベル）**」が貼付けてあります。ラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

①

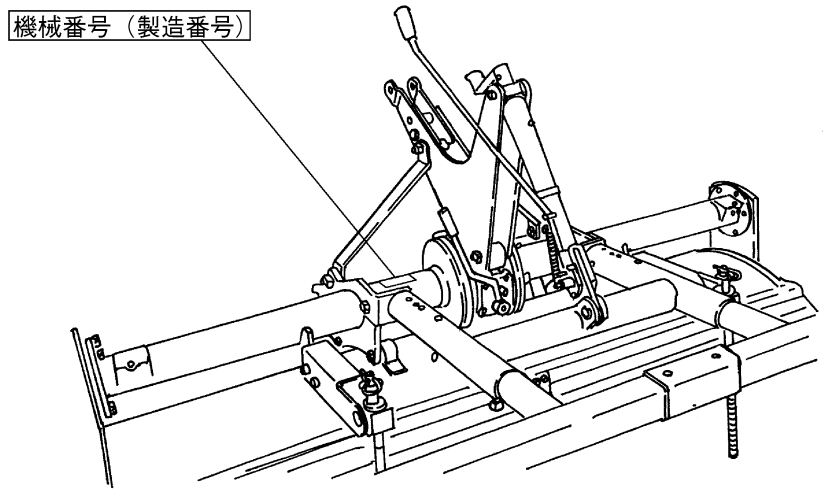



| No. | 部 品 名 称 | 部 品 番 号 |
|---|---|---|
| ① | ケイコクラベルロータリ | 0960 3200 040 |

# ご使用まえに

## 1．保証とサービスについて

・この機械の保証はトラクタの保証書で保証いたします。ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」をお知らせください。




**・補修用部品の供給年限について**

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

**・機械の使用目的について**

・機械は耕うん作業，代かき作業，うね立作業又は農業用作業機を装着しての農作業に使用してください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を改造しないでください。機械を改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因となることがあります。
◆使用目的以外の作業に使用しないでください。

# 2．仕様（装備）について

## 1．ロータリの仕様と適用トラクタ

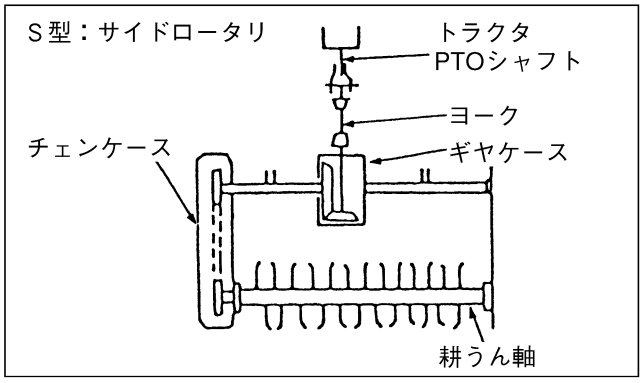
・ロータリの型式と仕様（装備）は次の表のようになっています。お買いあげの機械の仕様（装備）をお確かめください。

| ロータリ型式 | 駆動方式 | 耕幅(㎜) | | 標準3P | リヤカバー | 爪　軸 | 尾輪 | 適用トラクタ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | サイドドライブ | 1525 | 1625 | 直　装 | 小判穴 | 正逆爪 | | MT266・MT271・GO28・GO280・GO281 | MT286・MT291・GO30・GO300・GO301 | MT306・MT311・GO32・GO320・GO321 | MT336・MT331・GO34・GO340・GO341 | MT337・MT338・GX34 |
| R1532HR5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| R1532HR6 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

## 2．ロータリの種類について

### ❶　サイドロータリ（S型）

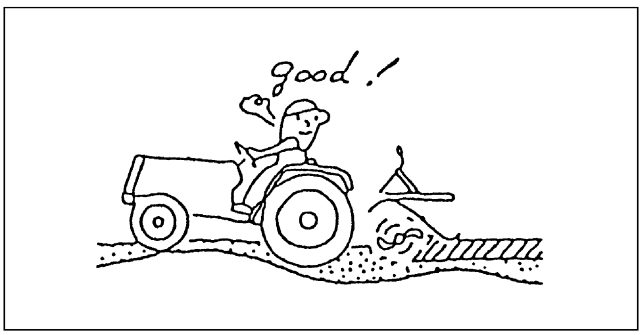
本ロータリは片側から駆動する方式のサイドドライブロータリです。
耕うん軸を両端で支えるため頑丈です。また，チェンは自動テンション式ですから，チェンの張り調整が不要です。




### ❷　PAC，JACロータリとMACロータリ

#### ⑴　PACロータリ

・**PAC**：（耕深自動制御装置）
耕うん跡の表面を基準にして耕深を自動的に一定にコントロールする装置で，耕盤が平らでないほ場でも，常に一定の深さで耕うんすることができます。

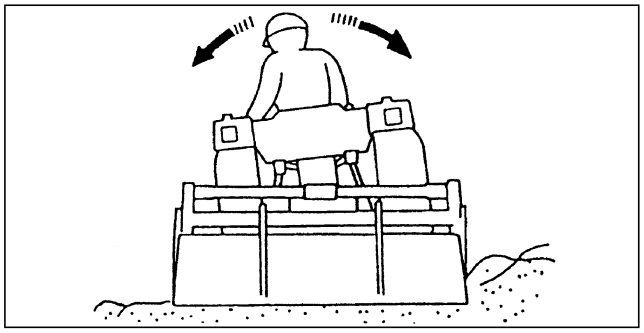



#### ⑵　JACロータリ

・**JAC**：（耕深及び傾斜自動制御装置）
PACロータリに傾斜自動制御機能を追加したもので，傾斜地でも常に耕うん面を水平に保つことができます。

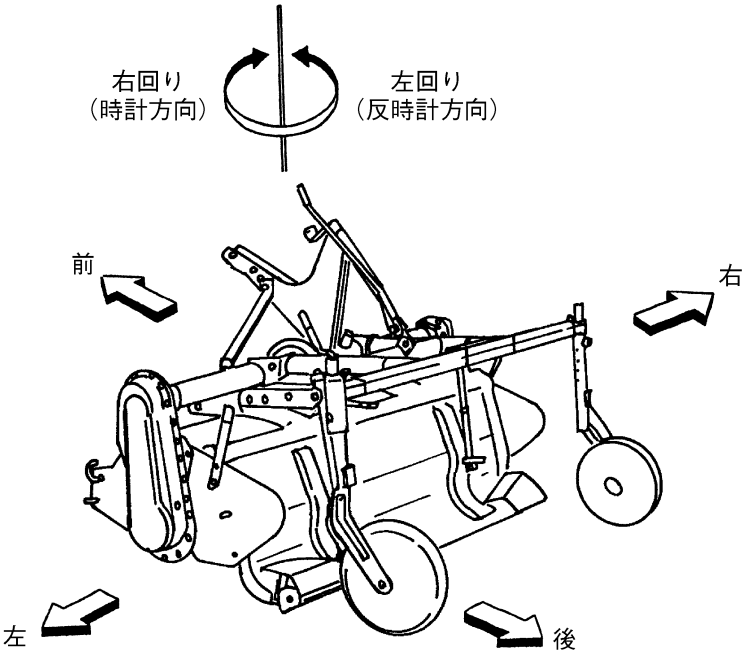
### ⑶ MACロータリ

・MAC：（マイクロコンピュータ自動制御装置）
ほ場条件や作業内容が変わっても各部のセンサがそれを感知してマイクロコンピュータが，すばやく計算して，設定した耕深を自動的に保ちます。またトラクタがほ場の凸凹により傾斜してもロータリは水平に耕うんすることができます。



# 3．用語について

❶ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のように決めています。




### ❷ マークの説明

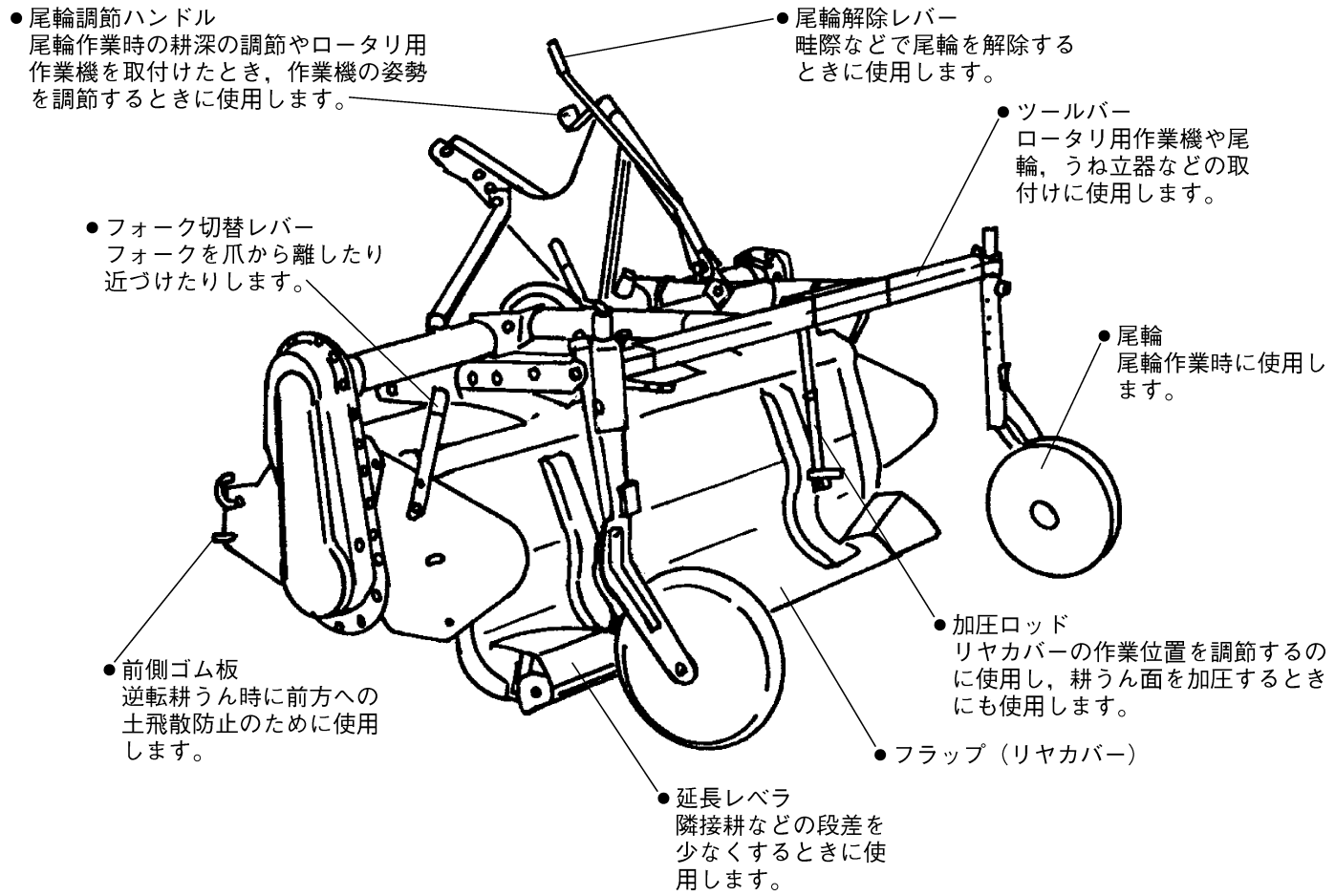
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・取扱いのポイント ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

# 各部のはたらき

## 1．各部のはたらき



# 作業まえの準備

## 1．作業まえの点検

### 点検項目

・点検は「**定期点検整備表**」(30ページ) を参考に行います。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは,「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けてください。

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆点検・整備する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆ロータリを上げて，掃除・点検・整備する時は，作業機降下速度調節グリップを《固定》の位置にし，ロータリが降りないことを確認し，ロータリの下に固定脚を置いてください。
◆オイル等の油脂類を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。

「作業まえの点検表」

| No | 場　所 | 内　容 | 処　置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 耕うん軸ボルト | ・ボルトがゆるんでいませんか<br>・折損変形がありませんか | ・増締めをしてください<br>・交換をしてください | 31・20・21 |
| 2 | 耕うん爪ボルト | ・ボルトがゆるんでいませんか<br>・折損変形がありませんか | ・増締めをしてください<br>・交換をしてください | 31・20・21 |
| 3 | 耕うん爪 | ・耕うん爪が変形してロータリ本体に当たっていませんか<br>・耕うん爪が著しく摩耗していませんか<br>・耕うん爪が脱落，折損していませんか | ・交換をしてください<br>・交換をしてください<br>・交換をしてください | |

# 2．ロータリの取付け・取外し

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータリの取付け・取外し作業は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して行なってください。

◆ロータリの取付け・取外しは，尾輪を使用してください。
尾輪が無いとトラクタからロータリを取外したときにロータリが倒れ傷害事故になることがあります。

◆トラクタとロータリの間に入らないでください。トラクタとロータリの間に入るとはさまれて傷害事故になることがあります。

●作業機を調整する場合は，トラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し,さらにPTO変速レバーが「中立」位置にあることを確認してから行なってください。

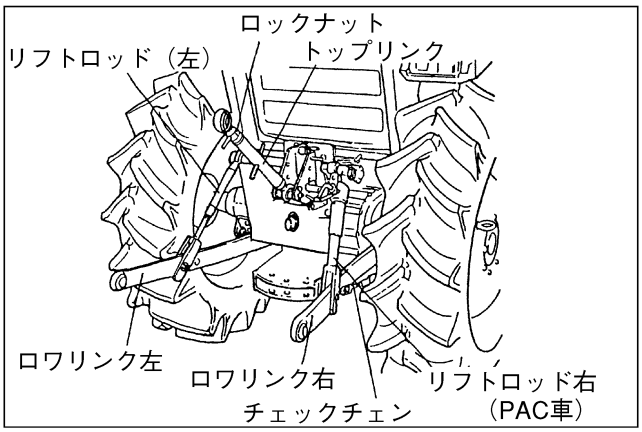
## 1．3点リンクの装着

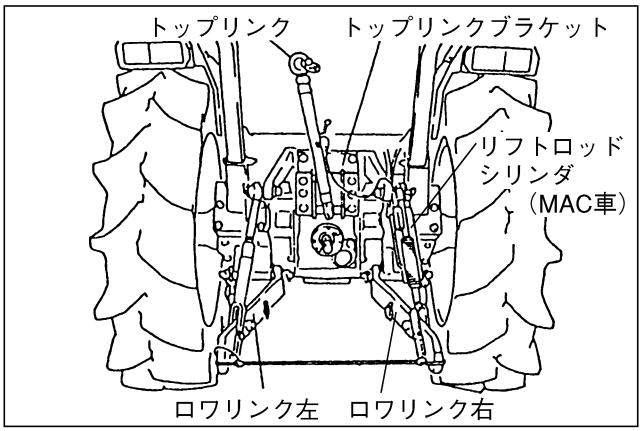
⚠警告　傷害事故防止のために

◆リフトロッドをロワリンクの誤った穴に取付けると，ロータリが上がり過ぎたり下がり過ぎたりして，ロータリのツールバーに付けた畦立器等で怪我をしたり，トラクタを破損するなど重大な事故を引起こすことがありますので，所定の穴にセットしてください。

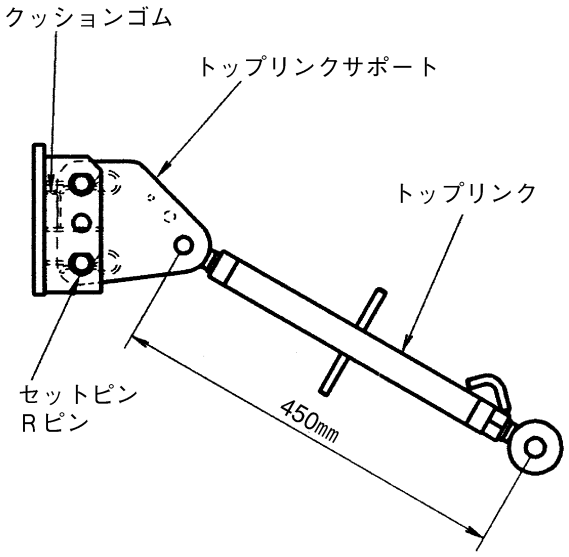
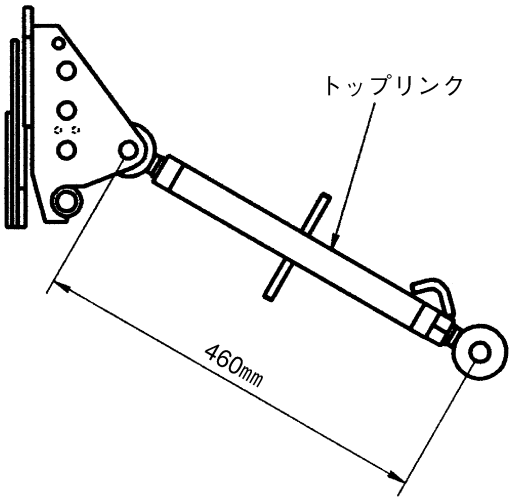
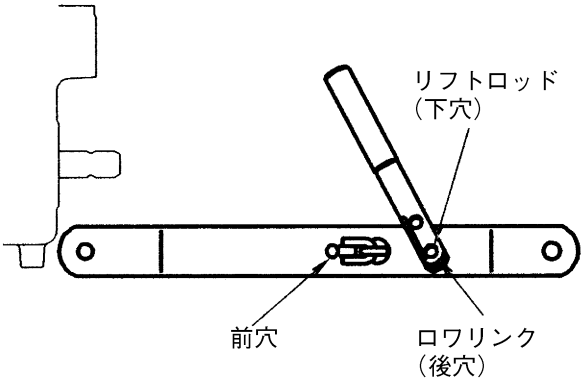
❶　3点リンクの装着はトラクタの「取扱説明書」を参照してください。

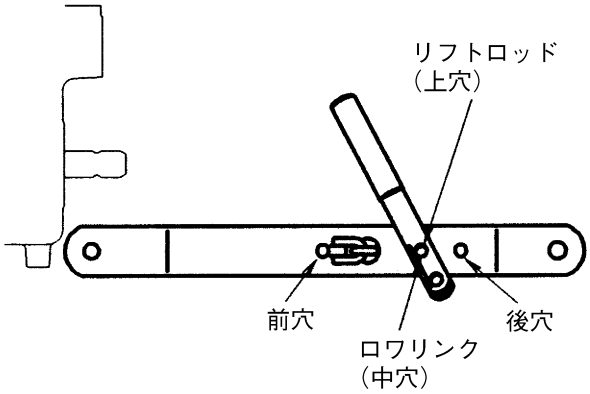
「3点リンクの取付け図」

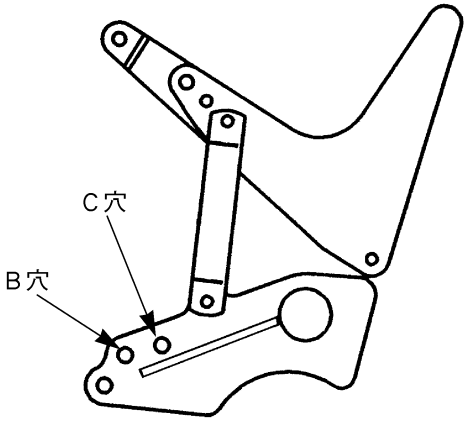


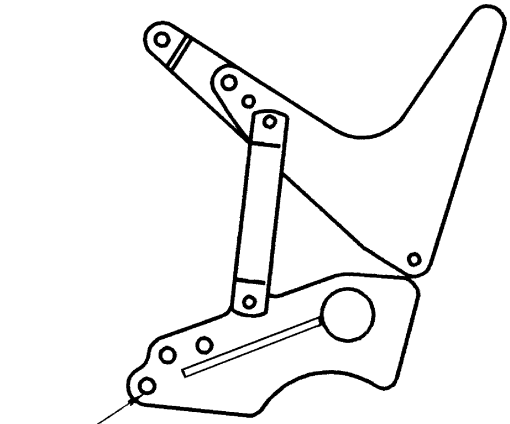




・トップリンク，リフトロッド，ロワリンク及びロワリンクピンの取付け位置は装着トラクタによって異なります。
次ページの表を参考に取付けます。

<table>
<tr><th>型式</th><th>MT266／336，MT271／331，GO28／34<br>GO280／340，GO281／341</th><th>MT337，MT338，GX34</th></tr>
<tr><td>トップリンク及びサポート</td><td>
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>リフトロッド及びロワリンク</td><td>

リフトロッド・・・・下穴<br>ロワリンク・・・・後穴</td><td>

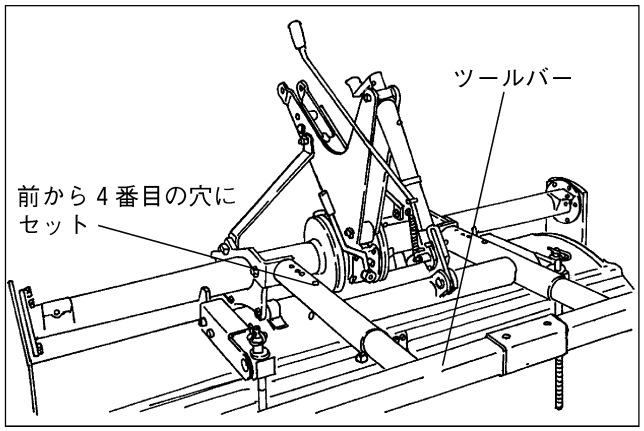
リフトロッド・・・・上穴<br>ロワリンク・・・・中穴</td></tr>
<tr><td>ロータリ側ロワリンクピン</td><td>

MT266～336　ロワリンクピン・・・B穴に取付け<br>MT271～331<br>GO28～34<br>GO280～340　ロワリンクピン・・・C穴に取付け<br>GO281～341</td><td>

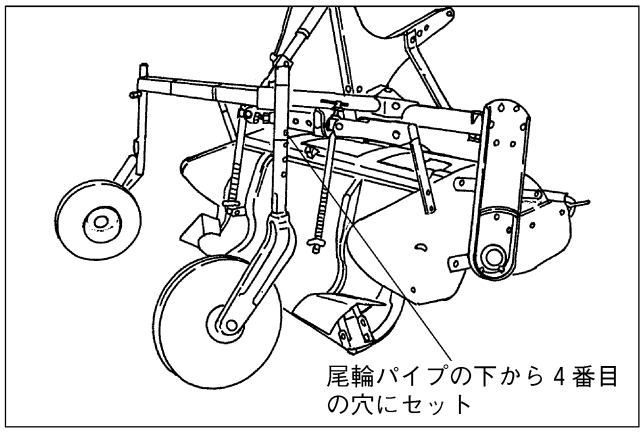
ロワリンクピン・・・A穴に取付け</td></tr>
</table>

## 2．ロータリの取付け

⑴　ツールバーを前から4番目の穴にセットします。




⑵　尾輪を下から4番目の穴にセットします。




⑶　ロワリンクを取付けます。

・ポジションコントロールレバーを操作し，ロワリンクをロータリの取付け高さにします。

・ロワリンク（左）を先に取付けます。高さの微調整はロワリンクを手で持上げて行います。

・ロワリンク（右）を取付けます。

**［PAC車の場合］**

ロワリンク（右）は，リフトロッド（右）のハンドルで高さを調整しながら取付けます。

**［MAC車，JAC車の場合］**

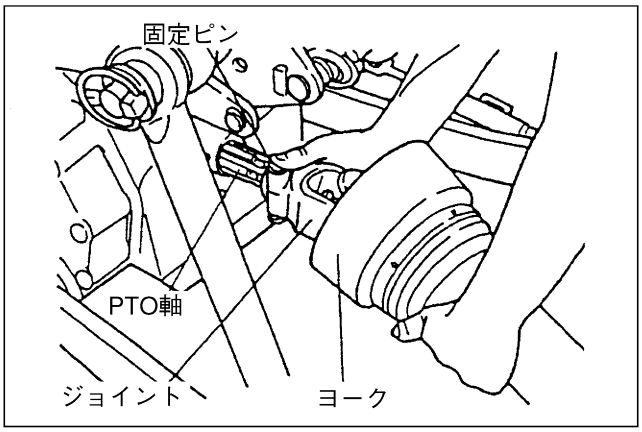
ロワリンク（右）の高さが合わないときは，トラクタにある傾斜設定ダイヤル（スイッチ）をゆっくり操作してロワリンクの穴を合わせます。傾斜設定ダイヤルの詳細は，トラクタの取扱説明書を参照してください。

⑷　トップリンクを取付けます。

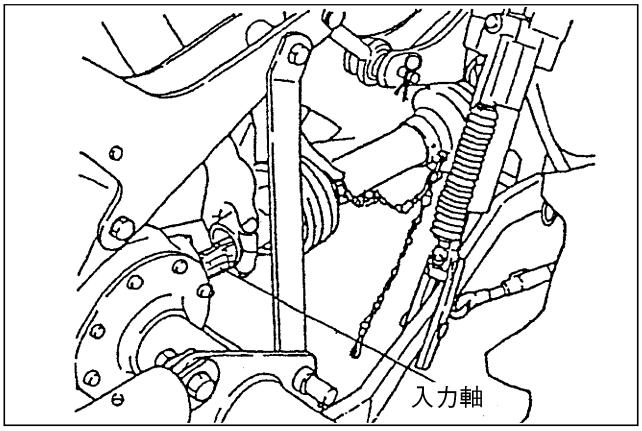
・セットピンはロータリの左側より差込みます。

⑸　ヨークを取付けます。

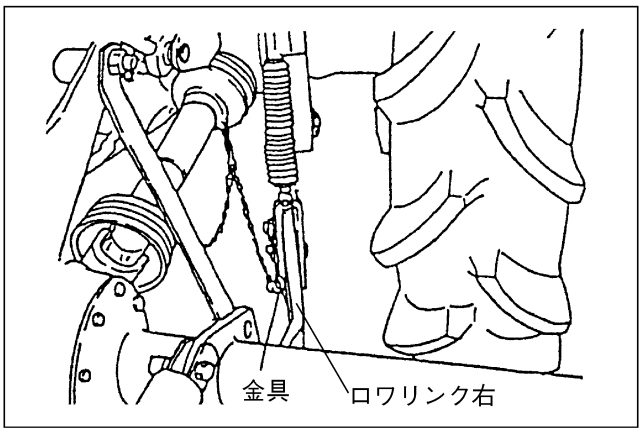
・「**トラクタ**」側を先に取付けます。固定ピンを指で押し込み，この固定ピンが元の位置に戻る所まで，PTO軸に差込みます。




・ロータリ側をPTO軸側と同じ要領で入力軸に差込みます。




・PTO軸側及びロータリ側の固定ピンが固定されていることを確認してカバーの鎖のフックをロワリンク右の金具にかけます。



⑹ ロータリを水平に調整します。

・耕うん爪が地面より離れる程度にポジションコントロールレバーでロータリを上げ，ロータリが水平になるように調整します。

**PAC車の場合**：リフトロッド（右）のハンドルで調整します。

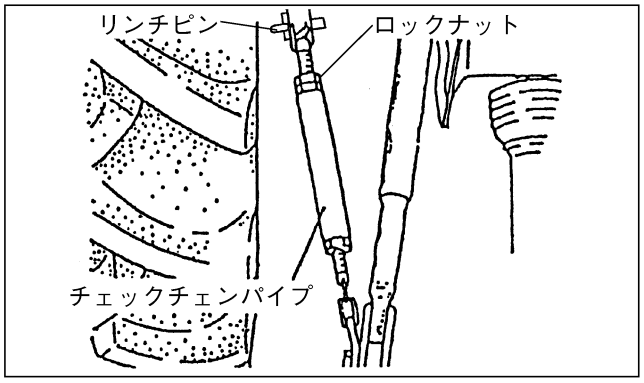
**MAC・JAC車の場合**：トラクタにある傾斜設定ダイヤルを《**水平**》にします。

⑺ ロータリの中心合わせをします。

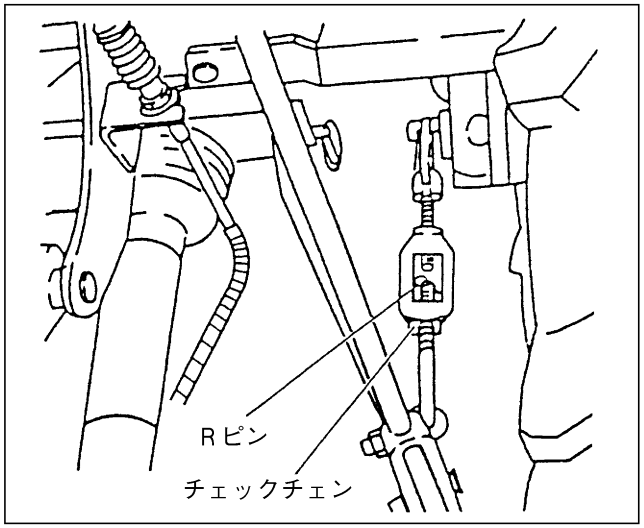
・左右のチェックチェンをトラクタ側のピンに取付け，リンチピンを差込みます。

・ロータリとトラクタの中心が一直線になるようにチェックチェンを調整します。このときロータリの左右の振れが耕うん爪位置で（１㎝）程度になるようにします。調整後，ロックナット又はＲピンで固定します。

［MT337］




［MT337以外］




⑻ PTOガードが装着されていることを確認します。

## 3．ロータリの取外し

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータリの取外しは尾輪を地面に接地させてロータリが前方へ倒れないことを確認してから行なってください。

◆トラクタからロータリを外した後，トラクタのPTO軸には，PTOキャップを取付けてください。PTOキャップを取付けないで作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こす恐れがあります。

**PAC・JAC車ではワイヤを，MAC車ではハーネスを外してから行なってください。**

・PACワイヤの取外し方……14・16ページ参照

・MACハーネスの取外し方……18ページ参照

⑴　尾輪を所定の位置にセットします。（8ページ参照）

⑵　爪先端又は尾輪が地面につくまでロータリをゆっくり降ろします。

⑶　ヨークを外します。

⑷　尾輪調節ハンドルを浅側（左回り）または深側（右回り）に回してトップリンクが外れる位置を捜し，外します。

⑸　ロワリンクをロータリ側の右から外します。

⑹　ロータリがトラクタより外れたら尾輪調節ハンドルを深側（右回り）に5～6回まわします。ロータリが安定します。

## 3．スーパーヒッチへの組替え

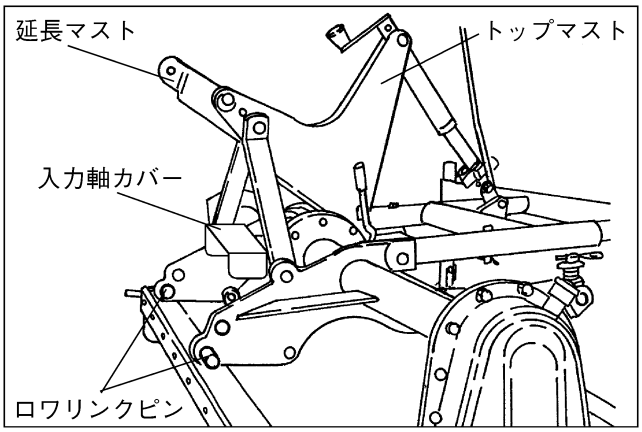
**［MT337またはMT338，GX34の場合のみ］**

・MT337またはMT338，GX34をお持ちでスーパーヒッチ仕様の三菱純正ロータリ（RC171YS，RC181YS，RC191YS）（RC172YS，RC182YS，RC192YS）（RC173YS，RC183YS，RC193YS）をご使用の方は次のように改造をすることにより，スーパーヒッチ仕様にすることができます。

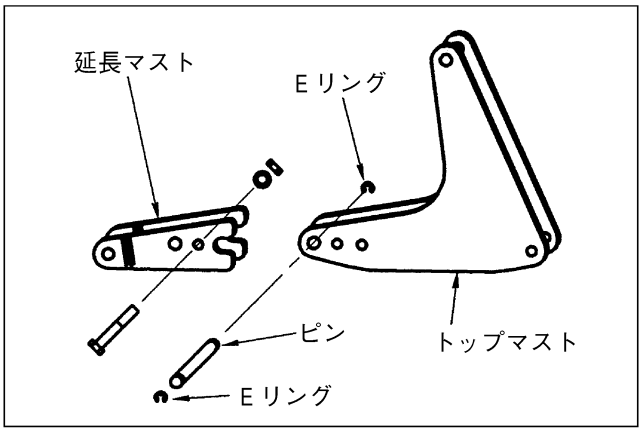
**取扱いのポイント**

**●上記以外のトラクタはスーパーヒッチへの組替えはできません。**

**「組替え前」**




**❶　延長マストの取外し**




・ボルト，ナット，ピンを外して延長マストを外します。

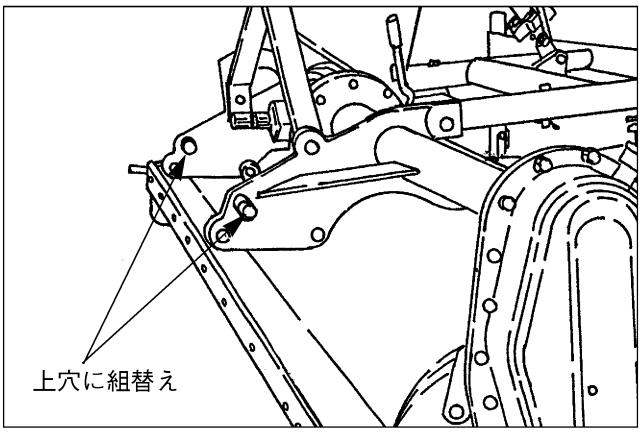
・延長マストに付いていたピンはトップマストの先端に取付けます。

・MT338，GX34のスーパーヒッチに装着の場合はロータリの入力軸のカバーは外してください。

❷ ロワリンクピンの組替え

・ロワリンクピンを下穴から上穴に組替えます。

締付トルク：2400～2800kgf･cm




**取扱いのポイント**

● スーパーヒッチ仕様にした時のロータリの取付け，取外しは純正ロータリ（RC171YS，RC181YS，RC191YS）（RC172YS，RC182YS，RC192YS）（RC173YS，RC183YS，RC193YS）の取扱説明書をご覧ください。

# 4．PAC車・JAC車の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータリ着脱時のPACワイヤの取付け，取外しの調整は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，ロータリを降ろしてエンジンを停止してから行なってください。

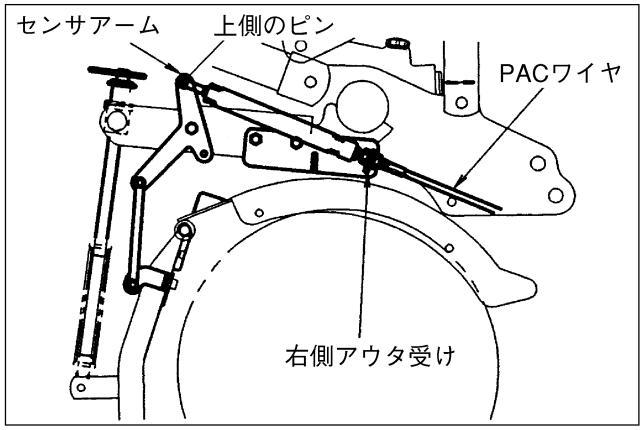
**取扱いのポイント**

**●本機型式によりPACワイヤの取付け，取外し及び調整のしかたが異なります。**
**お客様がお持ちの本機型式に合わせて以下の要領で装着してください。**

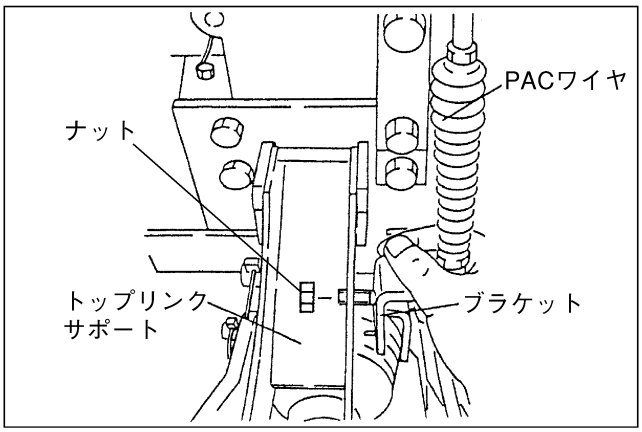
## 1．MT266･286･306･336，MT271･291･311･331の場合

### ❶ PACワイヤの取付けかた

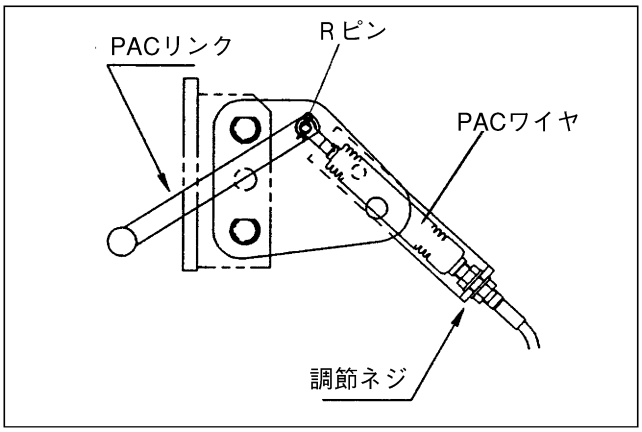
(1) PACワイヤをセンサアームの上側のピンに止めて，調整ネジ部を右側のアウタ受けに締付けます。



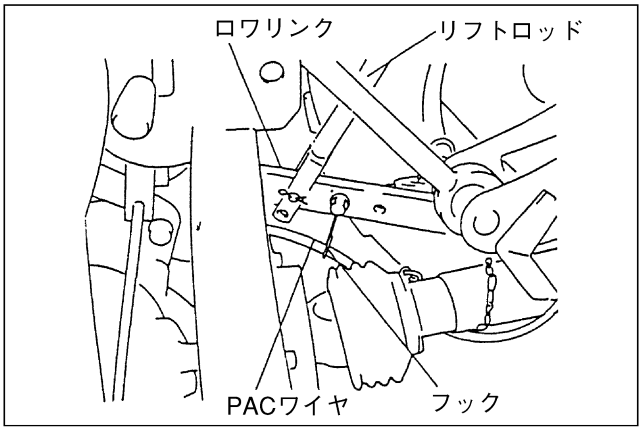

(2) PACワイヤが取付けてあるブラケットをトップリンクサポートの穴に差込み，ナットで止めます。




(3) PACワイヤの先端部をトラクタ側のPACリンクに差込み，Rピンで止めます。




(4) PACワイヤをロワリンクに取付けてあるフックに掛けます。

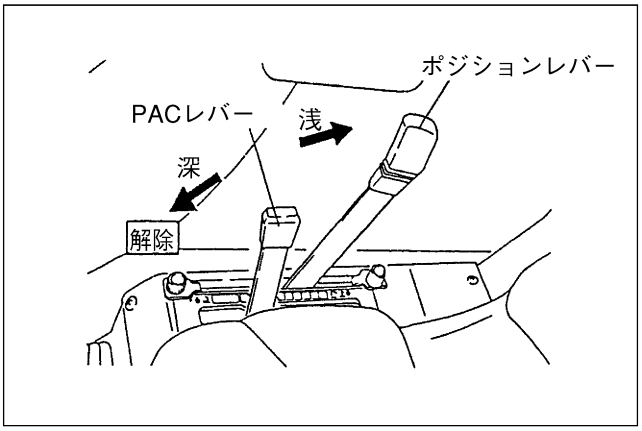


## MT266・286・306・336,MT271・291・311・331

### ❷ PACワイヤの調整

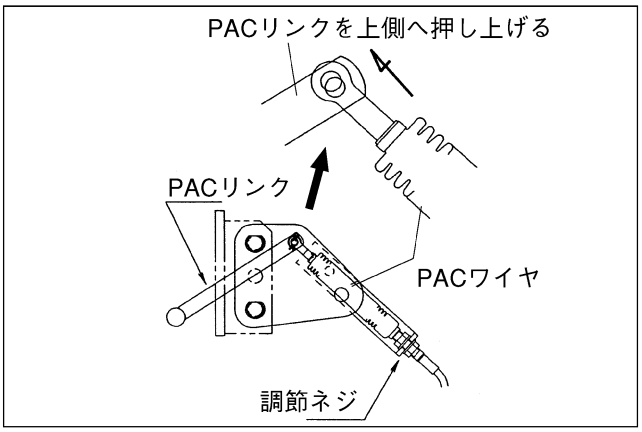
(1) エンジンをかけロータリを最上にして，PACレバーを最浅にします。

(2) 次にポジションレバーを下げて,リヤカバー後端が地面から50～100㎜の高さになるようにロータリを降ろします。




(3) エンジンを止めて，リヤカバーが地面についていないことを確認してください。

(4) リンクを上側に押し上げて遊びをとるように調整ネジで長さを調節してください。




(5) 調整後，エンジンをかけPACレバーを最浅にしてポジションレバーでロータリを上げ下げしてロータリの下げ速度があまり遅くならないことを確認してください。

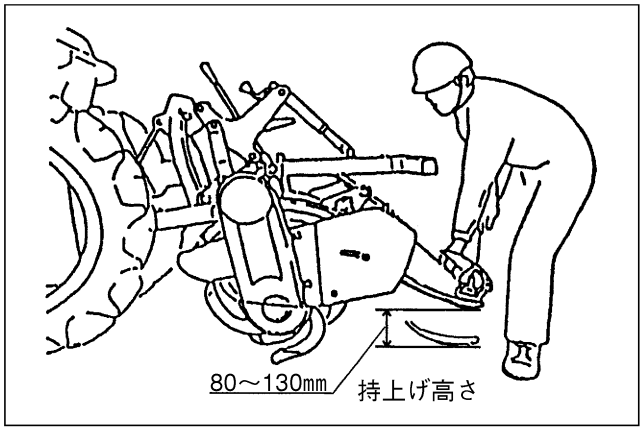
(6) 次にリヤカバーの不感帯の確認をします。

エンジン回転数を2000rpm以上にし，リヤカバーをゆっくり持上げながら確認します。

① PACレバーを“最浅”にしてポジションコントロールレバーを下げます。

② リヤカバー後端高さが,地面から50～100㎜になるようにポジションレバーを動かし調整します。

③ リヤカバーをゆっくり持上げて，PAC装置が正常に働くことを確認します。




・リヤカバーの後端部を「80～130㎜」持上げた時にロータリが上昇し始めれば正常です。

(7) この範囲にない場合は，PACワイヤの調整をします。

**「130㎜以上の場合」**

トラクタ側のPACリンクを少し押し上げるようにすれば小さくなります。

**「80㎜以下の場合」**

PACリンクの押し量を少なくすれば，大きくなります。

**取扱いのポイント**

**●PACワイヤは耕深の状態を敏感に油圧装置に伝える働きをしますので，軽くスムーズに動くことが必要です。**

## MT266・286・306・336,MT271・291・311・331

### ❸ PACワイヤの取外しかた

⑴ トラクタ側のPACリンクよりRピンを抜きPACワイヤの先端部を外します。

⑵ PACワイヤが取付けてあるブラケットのナットを外し，トップリンクサポートからブラケットを抜きます。

⑶ PACワイヤをロワリンクのフックから外します。

### ❹ PACレバーの使用方法

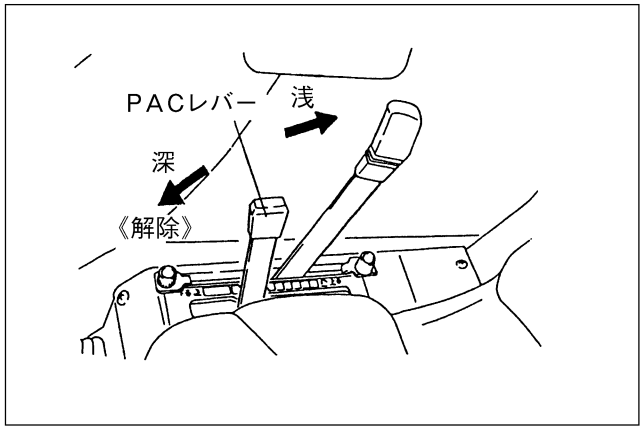
PACレバーを操作するだけで希望の耕深を自動的に調整します。

《浅》……この方向にレバーを動かすと耕深が浅くなります。

《深》……この方向にレバーを動かすと耕深が深くなります。

《解除》……この装置ではPAC（耕深自動制御）装置の働きを解除します。

希望の耕深になるようPACレバーで調整します。一度耕深を調整すれば，ほ場の凹凸，トラクタの浮き沈みがあっても自動的に油圧が働き一定の耕深で作業ができます。




**取扱いのポイント**

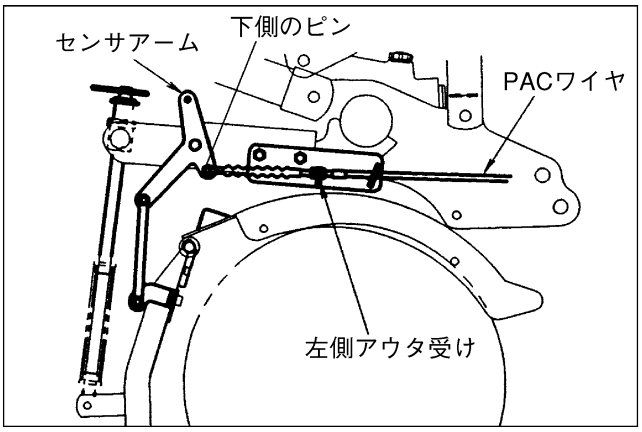
次の場合は，PACレバーを解除にしてください。

- PACワイヤの着脱，ロータリの洗車などでリヤカバーを上げるとき，あぜの上にリヤカバーが来るときは，《解除》にしてから行なってください。
- 自動車で運搬する時は，ロータリ爪が荷台に着くまで下げ，PACレバーを《解除》の位置にします。

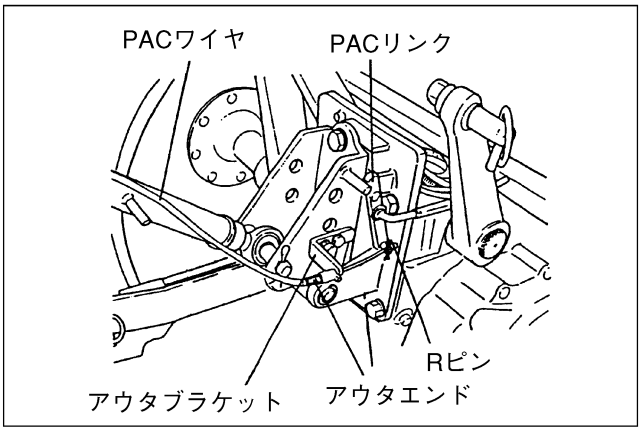
## 2．MT337,MT338,GX34の場合

### ❶ PACワイヤの取付けかた

PACワイヤをセンサアームの下側のピンに止めて，調整ネジ部を左側のアウタ受けに締付けます。




(1) PACワイヤのアウタエンドをトラクタ側のアウタブラケットに差込んでください。

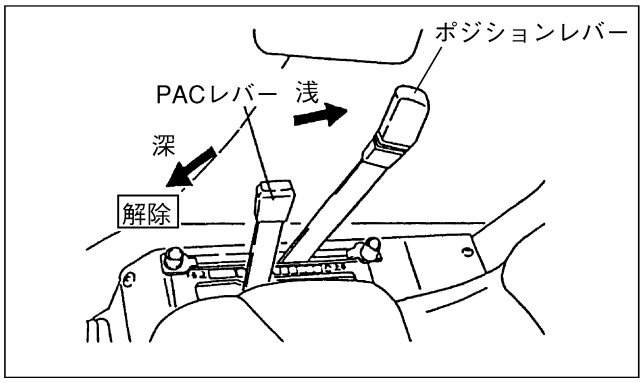



(2) PACワイヤの先端部をトラクタ側のPACリンクに差込み，Rピンで止めてください。

### ❷ PACワイヤの調整

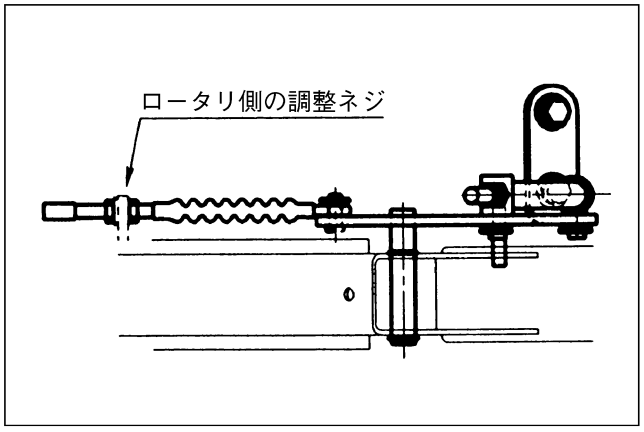
(1) エンジンをかけロータリを最上にして，PACレバーを最浅にします。

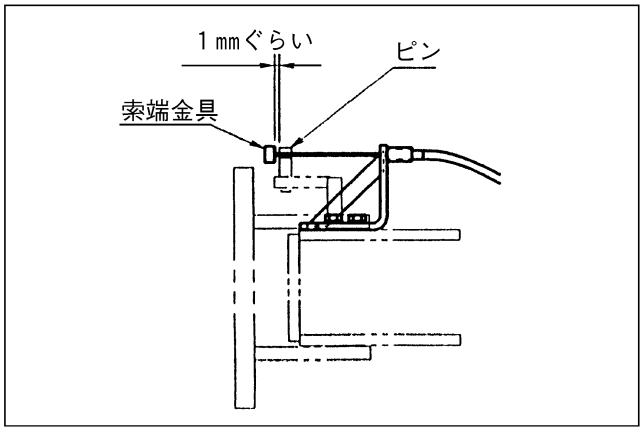
(2) 次にポジションレバーを下げて,リヤカバー後端が地面から50～100㎜の高さになるようにロータリを降ろします。




(3) エンジンを止めて，リヤカバーが地面についていないことを確認してください。

(4) 索端金具とピンのスキマが１㎜になるように，ロータリ側の調整ネジで調節してください。



## MT337，MT338，GX34

⑸ 調整後，エンジンをかけPACレバーを最浅にしてポジションレバーでロータリを上げ下げしてロータリの下げ速度があまり遅くならないことを確認してください。

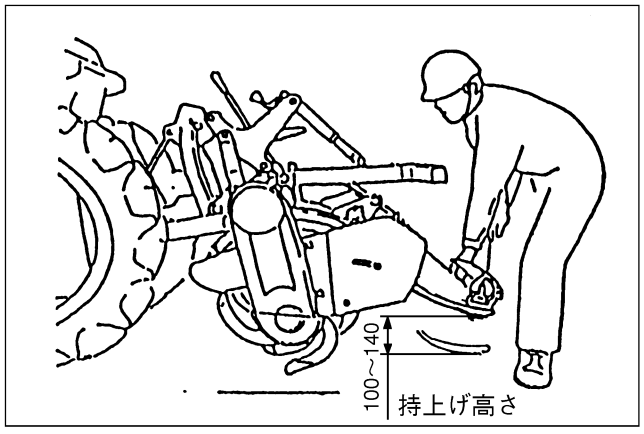
⑹ 次にリヤカバーの不感帯の確認をします。

エンジン回転数を2000rpm以上にし，リヤカバーをゆっくり持上げながら確認します。

① PACレバーを“最浅”にしてポジションコントロールレバーを下げます。

② リヤカバー後端高さが，地面から50～100㎜になるようにポジションレバーを動かし調整します。

③ リヤカバーをゆっくり持上げて，PAC装置が正常に働くことを確認します。




・リヤカバーの後端部を「100～140㎜」持上げた時にロータリが上昇し始めれば正常です。

⑺ この範囲にない場合は，PACワイヤの調整をします。

**「140㎜以上の場合」**

索端金具とピンのスキマを小さくします。

**「100㎜以下の場合」**

索端金具とピンのスキマを大きくします。

**取扱いのポイント**

**●PACワイヤは耕深の状態を敏感に油圧装置に伝える働きをしますので，軽くスムーズに動くことが必要です。**

**❸ PACワイヤの取外しかた**

⑴ トラクタ側のリンクよりRピンを抜きPACワイヤの先端部を外します。

⑵ PACワイヤのアウタエンドをアウタブラケットから外します。

**❹ PACレバーの使用方法**

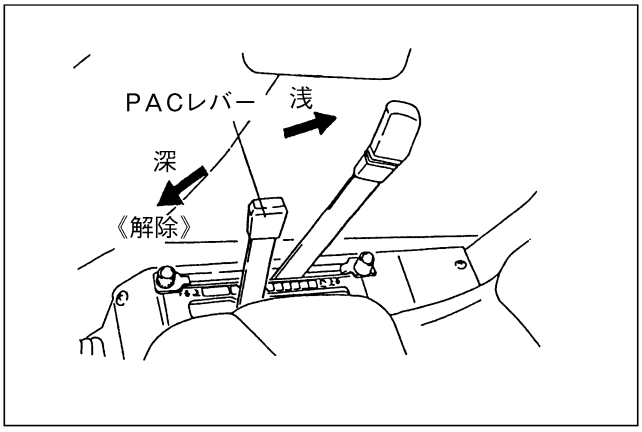
PACレバーを操作するだけで希望の耕深を自動的に調整します。

《浅》……この方向にレバーを動かすと耕深が浅くなります。

《深》……この方向にレバーを動かすと耕深が深くなります。

《解除》……この装置ではPAC（耕深自動制御）装置の働きを解除します。

希望の耕深になるようPACレバーで調整します。一度耕深を調整すれば，ほ場の凹凸，トラクタの浮き沈みがあっても自動的に油圧が働き一定の耕深で作業ができます。



# 5．MAC車の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータリ着脱時のハーネスの取付け，取外しは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，ロータリを降ろしてエンジンを停止してから行なってください。

## 1．機能

「MAC車」には高性能マイクロコンピュータ（マイコン）が搭載されています。これには下記の制御が集中コントロールされ，高能率，高性能の作業ができると共に，オペレータの作業が軽減されます。

| マイコンによる制御機能 |
|---|
| ● **ポジションコントロール** |
| ● **傾斜自動** |
| ● **耕深自動** |
| ● **ドラフト自動（MT337，GX34のみ）** |
| ● **安全装置** |
| ・エンジン始動時の安全機能 |
| ・平行復帰機能 |
| ・ダッシング防止機能 |
| ・バックアップ機能 |
| ● **その他** |
| ・作業機モード切替え機能 |

## 2．取扱いかた

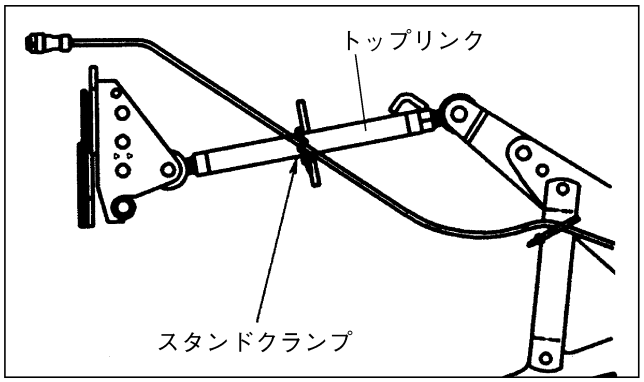
❶　作業内容によりトラクタ・サイドパネルの《**耕深自動**》ダイヤルを回して耕深を調節し，《**耕深自動**》ダイヤルを
右に回すと：「**深耕**」になります。
左に回すと：「**浅耕**」になります。

❷　このMAC車の取扱いかたは「**トラクタの取扱説明書**」に詳しく記載しております。よくお読みいただき正しい取扱いをしてください。

## 3．ハーネスの取付け・取外しかた

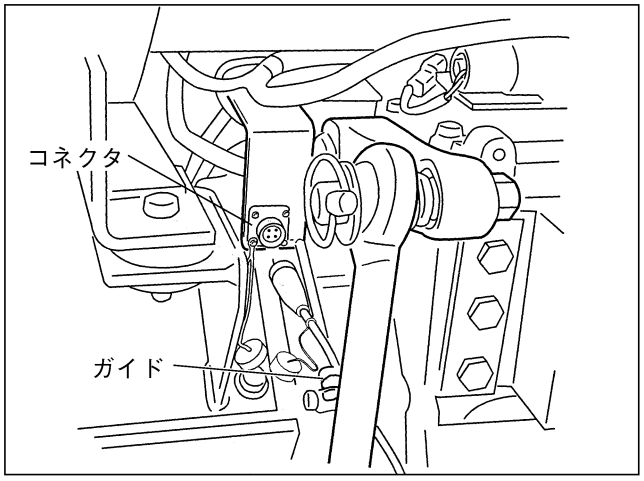
❶　**ハーネスの取付けかた**

ハーネスをトップリンクに取付けられたスタンドクランプに差込みます。

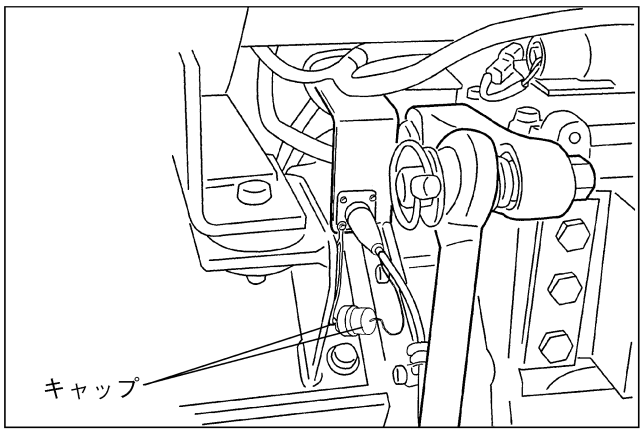



**［MT266～336，MT271～331，GO28～34
MT337，MT338，GX34］**

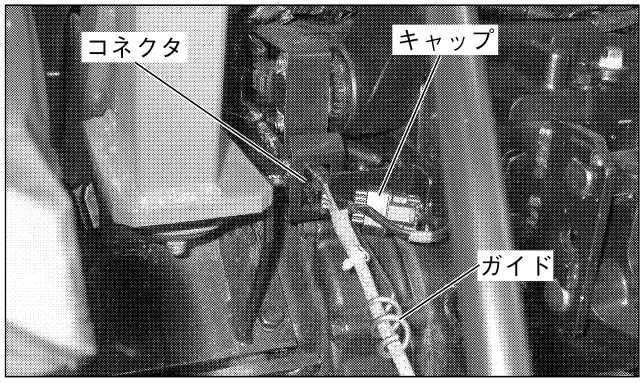
(1)　ハーネス先端のコネクタの矢印マークを上にして，トラクタのコネクタに「**カチッ**」と音がするまで差込みます。




(2)　トラクタ及びロータリ側のキャップを互いに差込みます。



［GO280～340，GO281～341］




⑴ コネクタからキャップを外してハーネス先端のコネクタをトラクタのコネクタに「**カチッ**」と音がするまで差込みます。

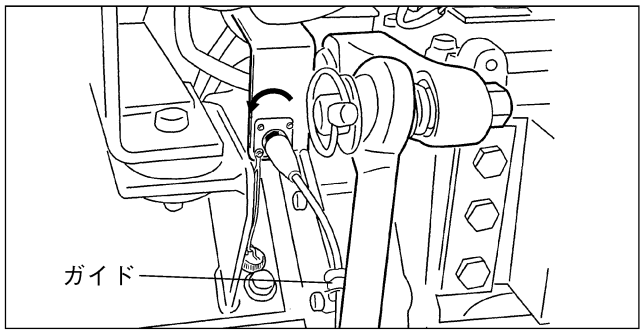
⑵ ブラケットのガイド部にハーネスを通します。

⑶ トラクタ及びロータリ側のキャップを互いに差込みます。

**❷ ハーネスの取外しかた**

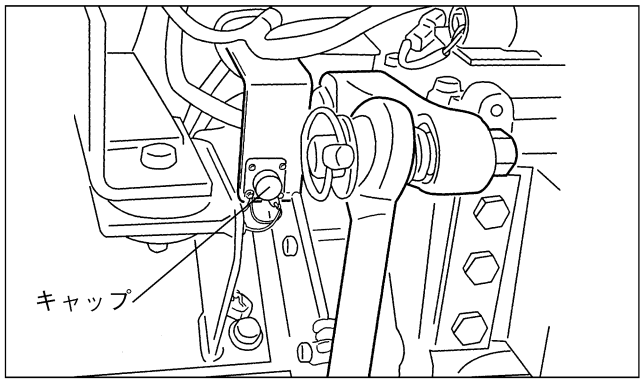
**［MT266～336，MT271～331，GO28～34**
**MT337，MT338，GX34］**

⑴ トラクタ側コネクタの抜け止め部を図のように左側に回して抜きます。



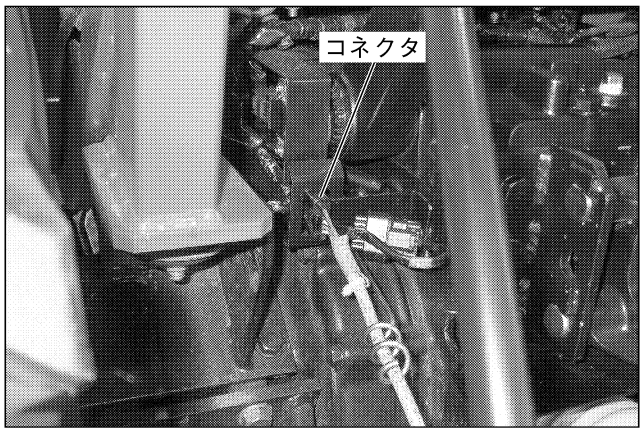

⑵ ガイド部からハーネスを外し，又，スタンドクランプからもハーネスを外します。

⑶ トラクタ及びロータリ側のコネクタ部に，水が入らないようキャップをします。



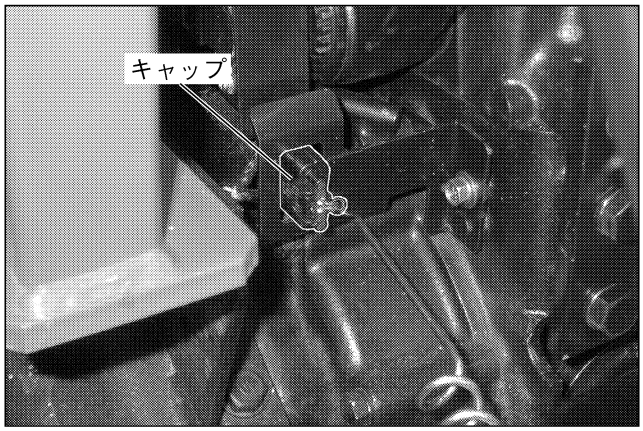

［GO280～340，GO281～341］

⑴ ハーネス側コネクタのロック部を指でつまんでコネクタを抜きます。




⑵ ガイド部からハーネスを外し，又，クランプからもハーネスを外します。

⑶ トラクタ及びロータリ側のコネクタ部に，水が入らないようキャップをします。




## 4．MAC車ロータリ

・浅耕時，ほ場条件により，ハンチング現象が出ることがあります。この場合は加圧ロッドの加圧プレートにて加圧を行います。（調整は23～25ページ参照）

・耕うん跡を加圧したいときは，条件に合わせて適宜加圧して使用します。

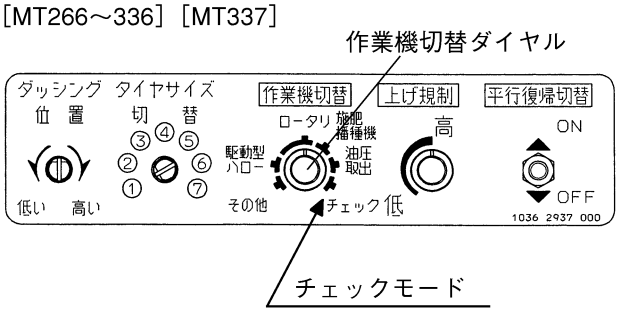
・ロワリンクをロータリにつけるとき，足で蹴ったりして入れてはいけません。ストロークセンサの故障の原因となります。

・洗車時高圧水（特にスチーム洗車）は耕深センサ（右図参照）にかからないようにします。

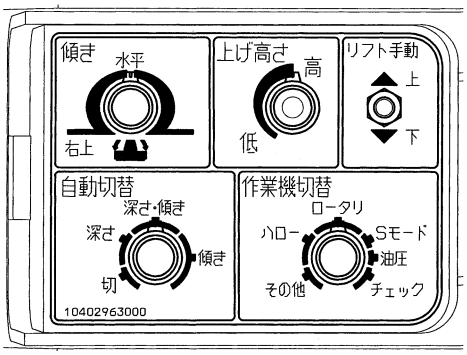
## 5．耕深センサロッドの調整

❶ エンジンを始動させ，ロータリを地面から少し上げて（リヤカバーを浮かせ），一度キーを《ＯＦＦ》にします。その後，サイドパネルの作業機切替ダイヤルを《**チェック**》にします。又は，作業切替スイッチを《**ロータリ**》にします。

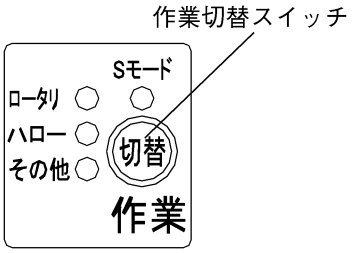
［MT266～336］［MT337］




［GO28～34］［MT271～331］［MT338］［GX34］

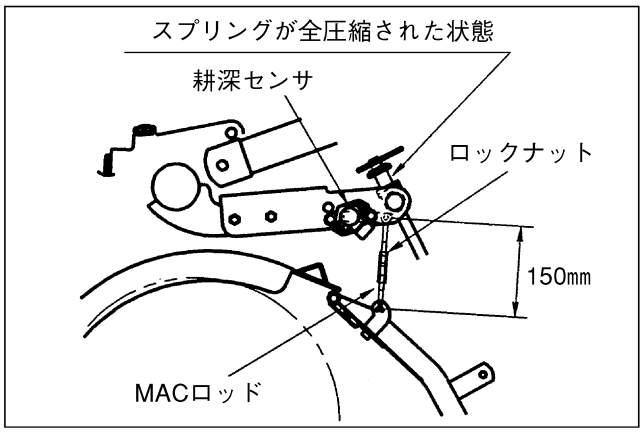



［GO280～340］［GO281～341］




❷ 再度キーを《ＯＮ》にし，MACロッドの長さを調整します。（基準寸法は150㎜）

❸ 加圧ロッド上のスプリングが全圧縮された状態でターンバックルを伸縮させて，パネルの耕深ランプが点灯する位置でナットをロックします。

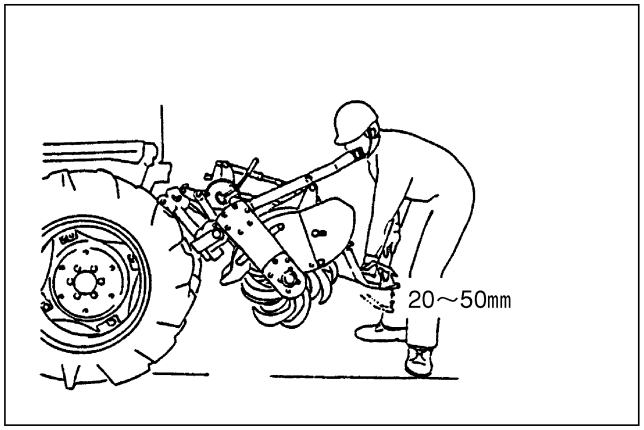


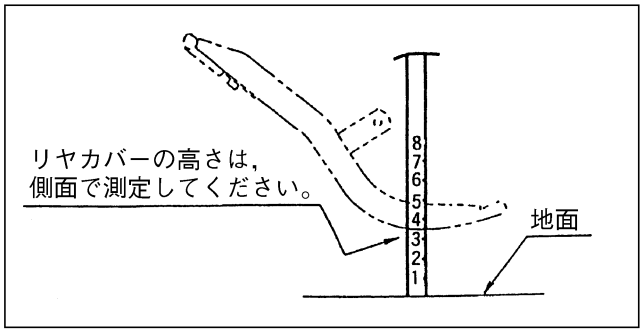

**取扱いのポイント**

●**ロックナットは確実に締付けてください。**

❹ 最後に不感帯の確認をします。（耕深感度は標準に設定）ロータリモードに切替え，耕深ダイヤルを最浅位置にして，エンジンを始動させロータリを一度最上げにしてください。その後，ポジションレバーを最下げにしてください。

❺ リヤカバーの後端を手でゆっくり持上げます。20～50㎜持上げた所で，リヤカバーを上下に動かしてロータリが追従すれば正常です。



# 6．耕うん爪の取付け

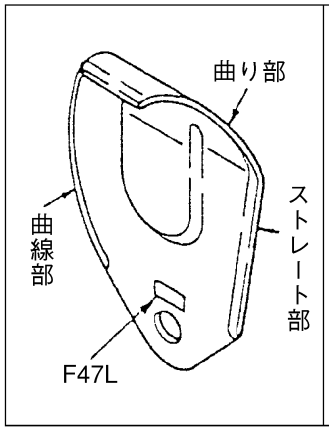
**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止してください。
◆作業機降下速度調節グリップを《固定》の位置にしてください。さらに不意にロータリが下がらないようロータリの下に固定脚を入れてください。
◆メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。

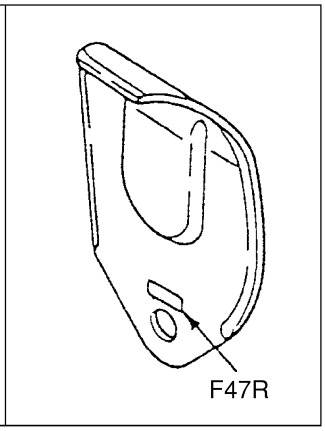
## 1．爪の取付け

❶ 爪は全部で 4 種類あり，形状と名称は下図の通りです。

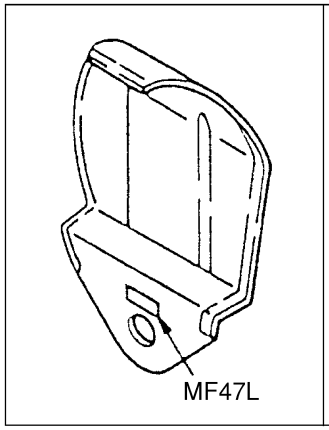
曲り部が手前にくるようにして曲線部が左側にある方が左爪です。



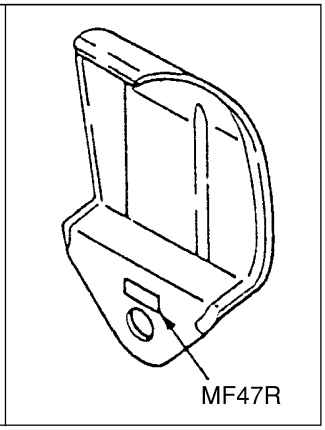

左爪




右爪




曲り爪(左)



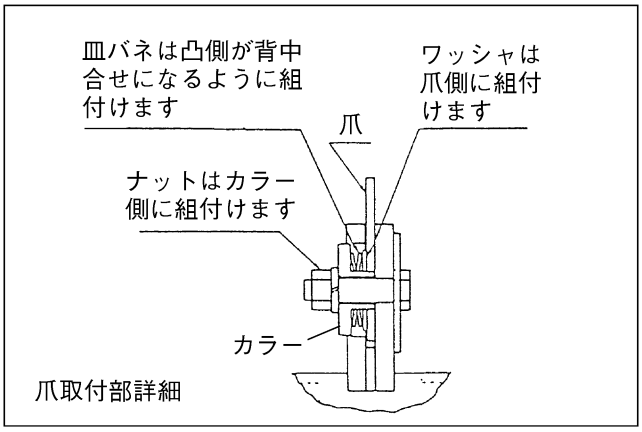

曲り爪(右)

❷ 爪の取付け方向は正転時に爪の曲線部が土を耕すように取付けます。

❸ 爪は“R”と打刻のあるホルダには右爪を，無印のホルダには左爪を取付けます。

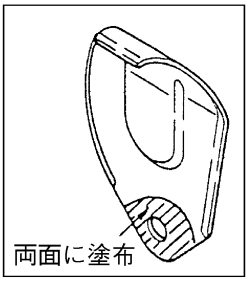
❹ 皿バネは図のように山側が背中合わせになるようにして取付けます。

❺ ボルトはホルダの小さい穴側から差込みます。但し爪軸の両端 4 個のホルダはカラーの方から差込みます。



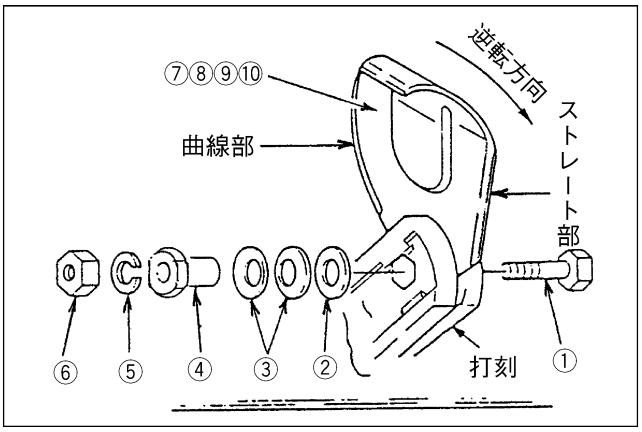

**取扱いのポイント**

- **PTOを 1 速に入れてロータリをゆっくり降ろすと，爪の向きは土の抵抗で自然に切替わりますが，初期は各部のなじみが無いため，爪の向きが充分変わらないことがあります。**
- **組付け時に爪の取付部の両面にオイルをうすく塗ると，滑らかに変わります。**



**取扱いのポイント**

- 爪の取付ボルトはエンジンを止め，PTOを入れ，爪軸が回転しないようにしてメガネレンチ（17㎜）で力いっぱい締付けてください。



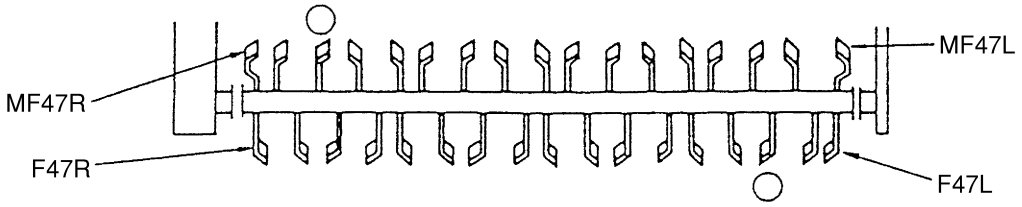

- 皿バネが摩耗すると耕うん中ゴトゴト音がすることがあります。この場合はボルトを増締めしても音は消えませんので，皿バネを新品と交換してください。
- 爪の配列及び爪の取付けについては細心の注意を払ってください。

| 見出番号 | 部 品 名 称 | 個数 | 備 考 |
|---|---|---|---|
| ① | ボルト | 34 | |
| ② | ワッシャ | 34 | |
| ③ | 皿バネ | 68 | |
| ④ | カラー | 34 | |
| ⑤ | バネ座金 | 34 | |
| ⑥ | ナット | 34 | |
| ⑦ | タイン左 | 16 | F47L |
| ⑧ | タイン右 | 16 | F47R |
| ⑨ | タインオフセット左 | 1 | MF47L |
| ⑩ | タインオフセット右 | 1 | MF47R |

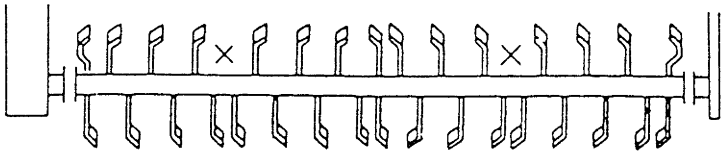
## 2．爪の配列

**R1532HR5**
**R1532HR6**

「平面耕」




「内盛耕」



×印部の爪は取外してください。

**取扱いのポイント**

- 隣接耕を行なって図１のように溝ができて困る場合，図２のように左右５番目の爪（○印の爪）を入替えて外向きにしてください（砂質地における特殊対応）。

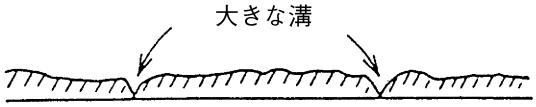



図１

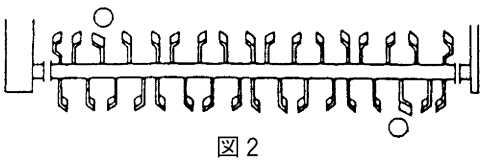


図２

# 7．ロータリ各部の取扱い

**⚠警告** 傷害事故防止のために

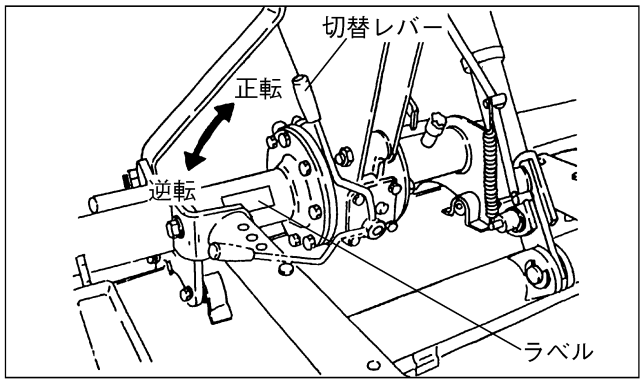
◆本機から降りて，正逆転レバーを動かす時は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してください。又，作業機降下速度調節グリップを《固定》の位置にしてください。さらに不意にロータリが下がらないようロータリの下に固定脚を入れて下さい。

## 1．正転・逆転耕うんの切替えかた

❶ ロータリの爪下が地面より「約50㎝」になるようにロータリを降ろし，エンジンを停止します。

❷ 作業機降下速度調節グリップを《固定》の位置にします。

❸ 爪軸を回しながら，ギヤケース後方の切替レバーを動かして，正転あるいは逆転に切替えます。

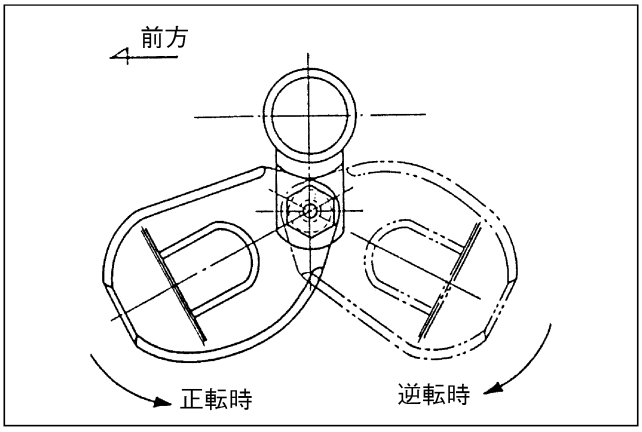



❹ 主変速レバーをニュートラルにして，エンジンを始動し，ローアイドルにします。

❺ PTOを１速に入れます。

❻ 作業機降下速度調節グリップを《**速い**》の方向に回し，ロータリをゆっくり降ろします。

❼ 爪の向きは土の抵抗で自然に切替わります。




**取扱いのポイント**

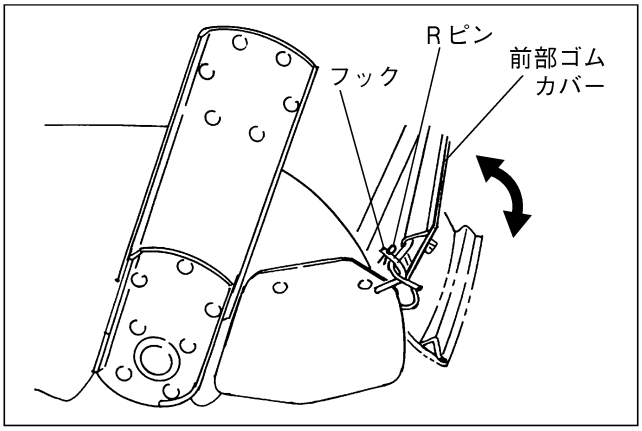
- **爪の切替えは固いほ場で行なってください。柔らかいと爪の向きが変わらず，十分な性能を発揮しないことがあります**

## 2．前部ゴムカバーの上げ・下げ調整

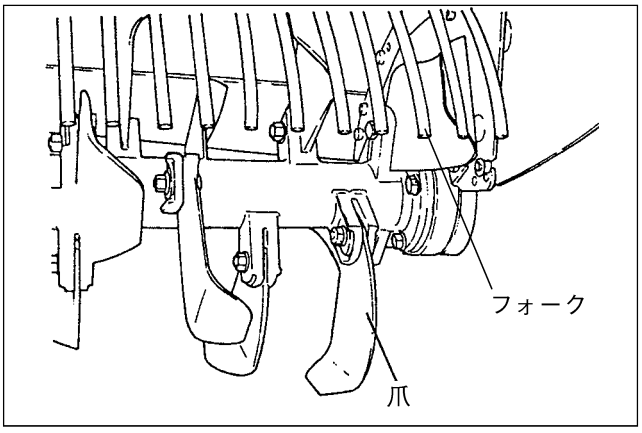
❶ 逆転耕うん時は前部ゴムカバーをフックから外して前側にたらします。

❷ 正転耕うん時はカバーを持上げロータリカバーのフックに取付けます。

❸ 逆転の場合でもうねくずし等前部ゴムカバーに土が乗ったり，又は土面に端部が当たる時は持上げて作業をします。



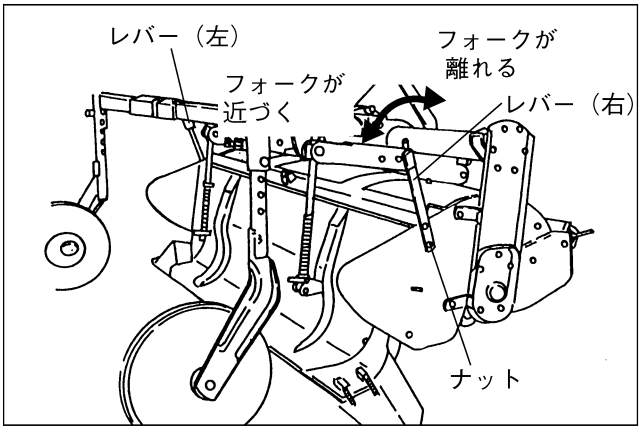
## 3．フォークの取扱い




❶ 作業に応じてフォークのセット位置を変えてください。

| | フォークを爪に近づけてセット | フォークを爪から離してセット |
|---|---|---|
| 作業内容 | ●土塊の細かい播種床作り等 | ●水田の耕うん作業等<br>●逆転耕うんでのサイドリッジャによるうね成形作業 |

❷ フォークを動かすには左右レバーを止めているナットを緩めてレバーを動かしナットを締付けます。




**取扱いのポイント**

●PAC，MACで耕うんを行う時は，フォークを爪に近づけてセットしてください。耕深自動が正しく作動しないことがあります。

## 4．尾輪の取扱い

❶ **尾輪使用時**

PAC車：PACレバーを《**解除**》の位置にします。（14ページ参照）

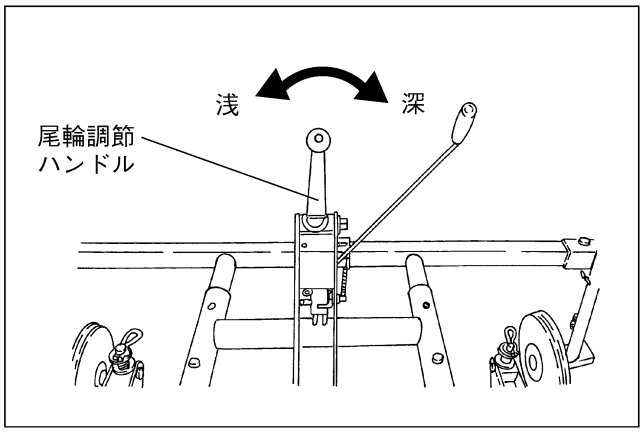
MAC車：《**耕深自動**》スイッチを操作し，《**耕深自動**》を《**ＯＦＦ**》にします。（または，耕深自動ダイヤルを《**うね立て**》にします。）メータパネルの《**耕深自動**》ランプが消えていることを確認します。

❷ **耕深の調節**

尾輪調節ハンドルを回します。

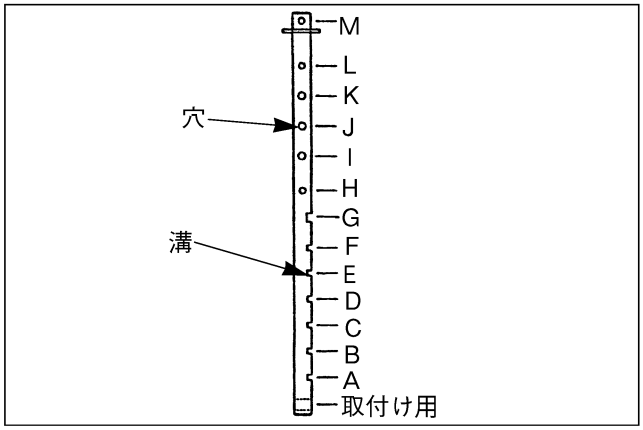
・右に回せば……深くなります。

・左に回せば……浅くなります。




## 5．加圧ロッドの取扱い

加圧ロッドには，加圧プレートをセットする溝が7個所とRピンを差す穴が6個所あります。それぞれ用途により使い分けます。



### ❶ 加圧プレートのセット位置

(1) A溝

・耕うん跡をリヤカバーで押さえない時は加圧プレートをA溝にセットします。

(2) B～G溝

・凸凹の激しいほ場やうねくずしなどで，表面の仕上がりを平にしたいほ場に使用します。

・PAC，MAC耕うんで地表面に波が発生した場合は加圧プレートをB～G溝にセットして加圧スプリングを働かせます。セット位置を上方に上げるにつれ加圧力は強くなります。

### ❷ Rピンを差す位置

(1) M穴

・通常はこの穴にRピンを差込みます。

(2) L～I穴

・三角切欠きのあるリヤカバーでうね立て作業を行う時バック耕うん時はこの穴にRピンを差込みます。

(3) H穴

・耕うん刃の交換。

・三角切欠きの無いリヤカバーでうね立て作業を行う時はこの穴にRピンを差込みます。

・内盛耕，二畦耕で山の表面をリヤカバーでなでたくない時はこの穴にRピンを差込みます。

(4) 加圧ロッドのRピンをH～L穴に差しかえた時は次の要領で行います。

「PAC車」

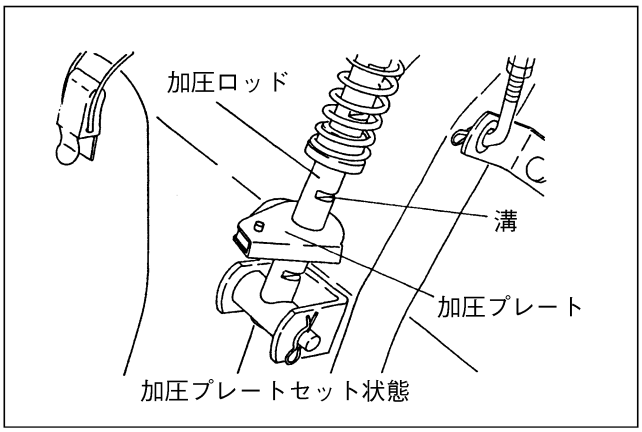
・エンジン始動まえにPACレバーを《**解除**》の位置に操作します。

「MAC車」

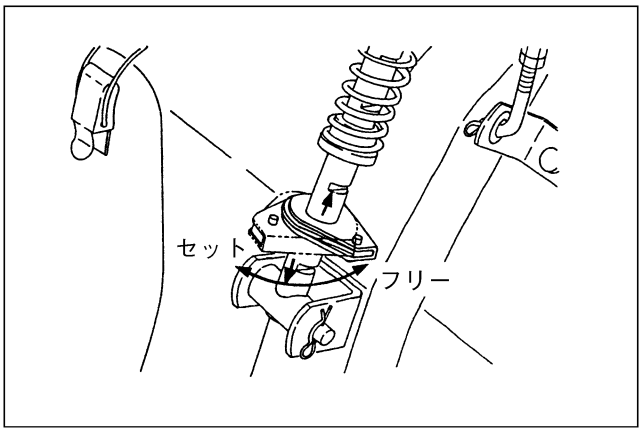
・エンジン始動まえに耕深自動ダイヤルを《**うね立て**》の位置に設定します。

### ❸ 加圧プレートのセット方法

(1) 加圧プレートを左に回してフリー状態にします。




(2) 希望する溝の位置で加圧プレートを右に回してセットします。




### ❹ Rピンの差しかえ方法

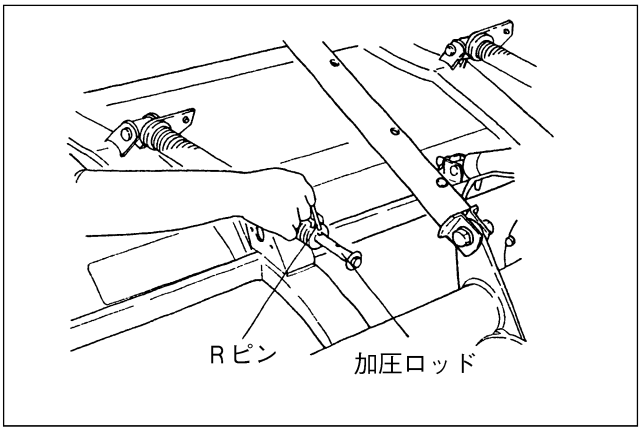
**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆加圧ロッドのRピンを左右同時に抜かないでください。リヤカバーが抜け落ちケガをすることがあります。

◆加圧ロッドのRピンをH～L穴に差しかえたときは，エンジン始動まえにPACレバーを《解除》又は耕深自動ダイヤルを《うね立て》にしてください。さもないと，エンジン始動と同時にロータリが上昇し，傷害事故になることがあります。

(1) ロータリを地面に降ろし，エンジンを停止します。

(2) リヤカバーを持上げて加圧ロッドのＲピンを片側ずつ差しかえます。




**取扱いのポイント**

**●加圧ロッドのＲピンをＨ～Ｌ穴に差したときは，耕深の調節は尾輪又はうね立器等で行なってください。**

## 6．ツールバーの取扱い

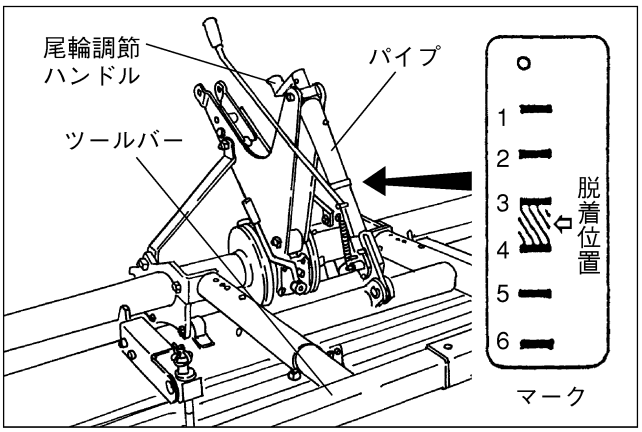
❶ ツールバーはスライド式で５段調節になっています。

❷ 尾輪調節ハンドルを回すとツールバーの角度が変わります。

・右に回せば……上向きになります。

・左に回せば……下向きになります。

尾輪調節ハンドルのパイプに，マークを貼付してありますので，ほ場条件，使用する作業機により，ツールバーのセット角度の目安にします。




❸ 尾輪使用時，リヤカバー左・右を外さないで行う場合は，ツールバーをいっぱい後方へスライドさせて使用します。

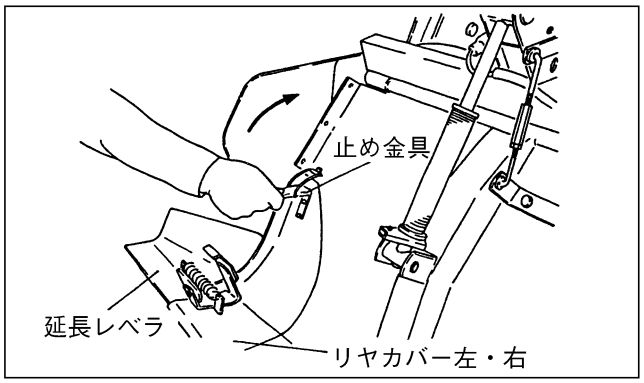
## 7．リヤカバー（左／右）の取付け・取外しかた

**⚠注意** ケガ防止のために

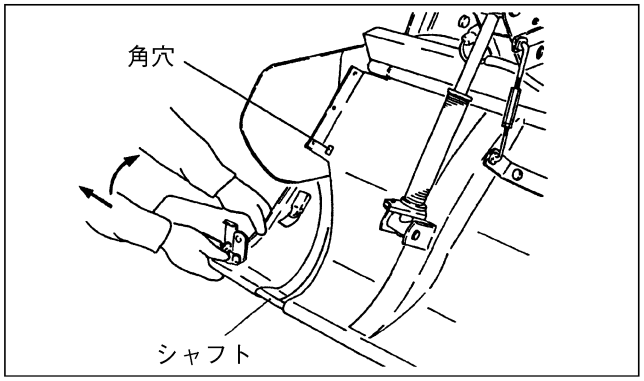
**◆止め金の着脱作業は，サイドカバーなどの角部等に直接手が触れないよう手袋をして行なってください。**

**❶ 取外しかた**

・延長レベラを開き，止め金具を外します。




・リヤカバー左・右を回しながら抜取ります。




**❷ 取付けかた**

・リヤカバー左・右のシャフトをリヤカバーに差込みます。リヤカバーの角穴からリヤカバー左・右のフックを表面に出します。

リヤカバー左・右の止め金具をフックにかけ固定します。

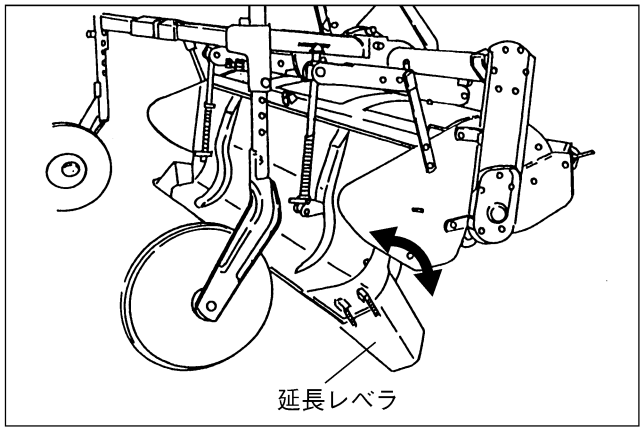
## 8．延長レベラの使いかた

次のような場合は延長レベラを開いて作業を行います。

(1) 代かき作業時で隣接部の段差をなくしたい時。

(2) 畑作または水田裏作等で，隣接部に溝を残したくない時。

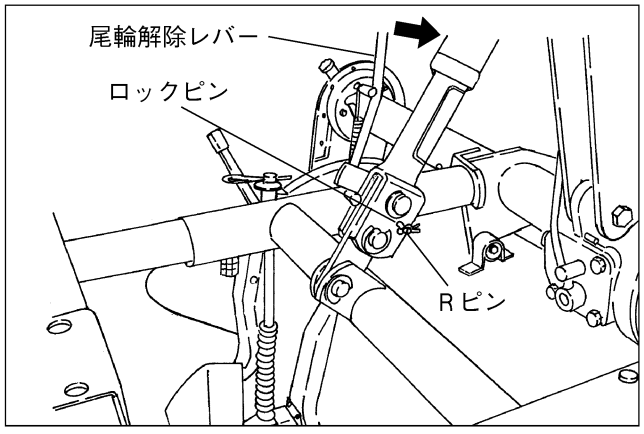
(3) うね立て作業時で隣接部の段差を少なくしたい時。



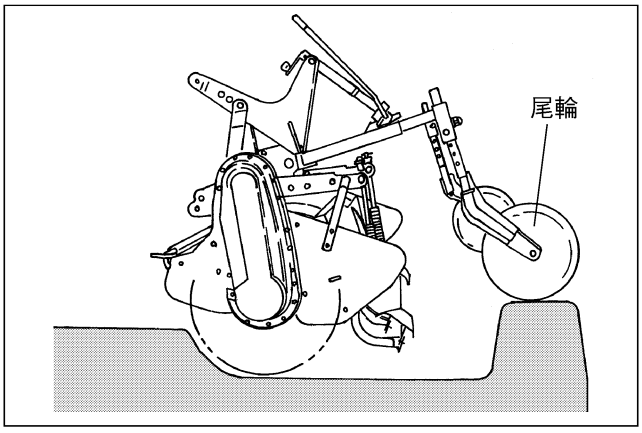

## 9．尾輪解除装置の取扱い

❶ 尾輪解除レバーの解除防止ロックピンを外します。紛失しないよう保管します。

❷ 尾輪が畦はんの上になるまでトラクタをバックさせて尾輪解除レバーを前側矢印方向へ倒し，ロータリをゆっくりおろします。




❸ ロータリを下げると尾輪が畦に当たり自動的に尾輪が解除され，さらにロータリが下がります。




❹ 畦はんを離れる所まで耕うんしたらいったんトラクタを停止し，ロータリを上げると，尾輪は固定の位置になります。

❺ 再びロータリを下げて通常の耕うんを行います。

**取扱いのポイント**

- **PAC，MACが効いていると尾輪解除装置を使用しての畦際耕うんができません。**
- **畦際の耕深が深くなる時はポジションレバーの下げストッパで規制してください。**

# 作業のしかた

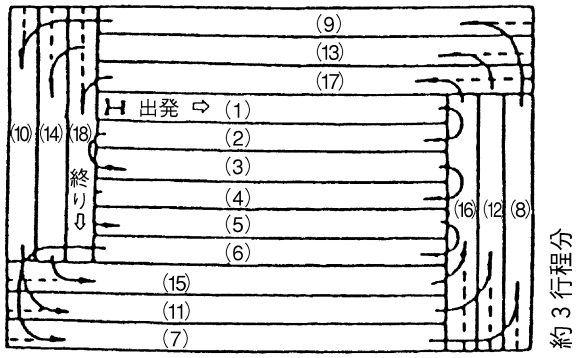
## 1．ロータリ耕うん法

### 1．隣接往復耕

ほ場の条件が良い場合はこの方法が能率的で作業が簡単です。

❶ ほ場の周囲を「**3行程弱幅**」残して（枕地）下図のように直進耕うん後3回のまわり耕で枕地を処理します。

❷ 耕うん順序は隣合わせにすすみ，前後輪タイヤが一度耕うんした所に落ちないようにします。




注記：→進行方向…いったん後進　　約3行程分

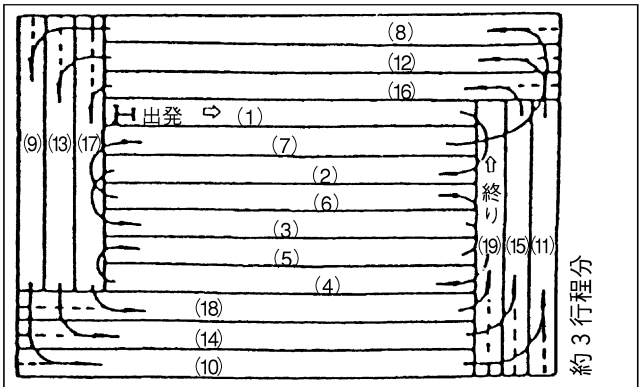
**取扱いのポイント**

- **上図長方形部分1枚が直進1回で耕うんされる面積を示し，この順序が1度耕うんした所を後輪タイヤで押さえないための最善の方法です。枕地処理の出発点はトラクタが最後に出る所によって決まります。直進が終わって次の直進に移るまで（旋回時）はロータリを上げてください。またロータリを引き上げた位置と降ろした位置をそろえますと枕地作業が楽にできます。**

### 2．一本おき往復耕

ほ場条件が悪い場合や小まわりのむずかしい場合に用いる方法で耕うん機の耕法と同じです。

❶ ほ場の周囲を「**3行程弱幅**」残して（枕地）下図のように最初一うねおきに直進耕し残りを耕うんした後に3回のまわり耕で枕地を処理します。




注記：→進行方向…いったん後進　　約3行程分

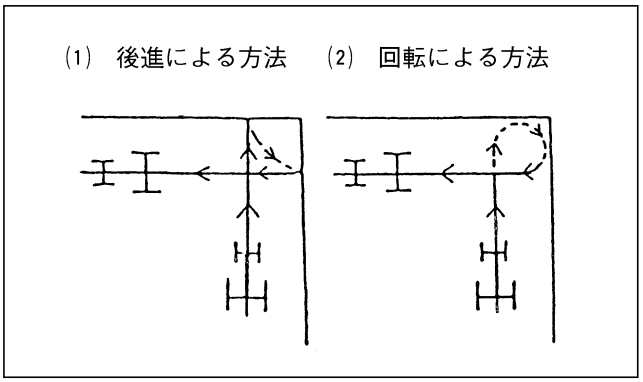
### 3．旋回（方向転換）方法

❶ **バックによる方法**

枕地線まで直進耕を行い，ロータリを引き上げ，右後方へあぜまで後進しながら，隣接既耕地にタイヤをそわせるように前進します。

❷ **回転による方法**

枕地線まで直進耕を行いロータリを引き上げると同時に回転して方向を変えます。




**取扱いのポイント**

- **耕うん状態のままで，無理にハンドルを切って旋回すると，爪を曲げたり，チェンケースを破損する原因になります。**

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆ロータリの草の巻付きや障害物を取除くときは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止してください。

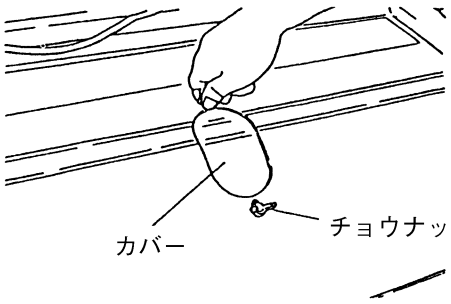
◆油圧の降下速度調節グリップを《固定》の位置にしてください。さらに不意にロータリが下がらないようロータリの下に固定脚を入れてください。

◆爪軸の回転が止まってから草の巻付きや障害物を取除いてください。

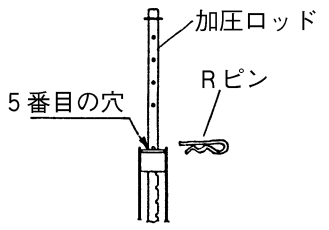
# 2．ロータリうね立て作業

## 1．うね立器の取付けかた

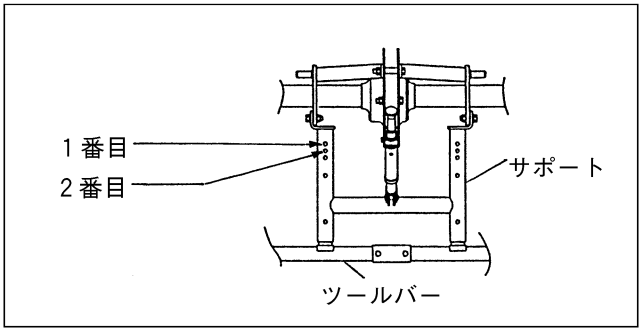
(1) チョウナット2個を取外してカバーを外します。



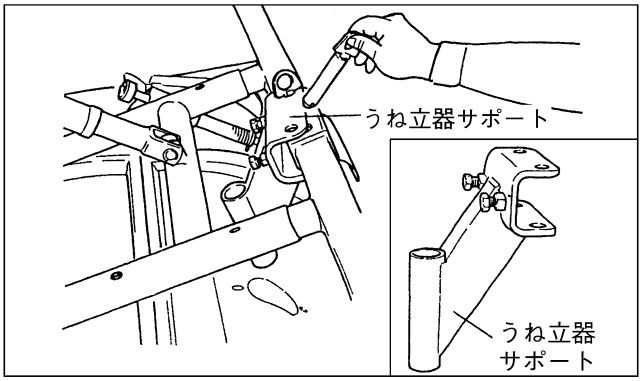

(2) リヤカバーをいっぱい上げて加圧ロッドのRピンを上から5番目の穴（H穴）に差込みます。



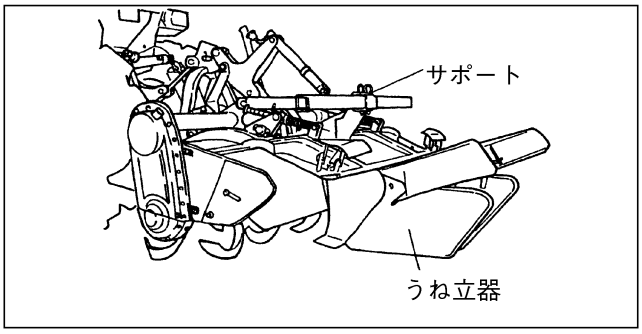

(3) ツールバーをサポートの前から1番目，又は2番目の穴にセットします。




(4) ツールバーにうね立器サポート（アタッチメント）を取付けます。




(5) うね立器サポートにうね立器をリヤカバーの下から差込み，ボルトで固定します。



## 2．作業要領

うね立て作業の場合は砕土された土を外側に飛ばす必要がありますが，通常の場合は平面耕の爪の取付けかたで作業できます。ほ場条件が特に粘土質あるいは大きなうね形状にしたいときは内盛耕の場合と反対に爪が外向きになるように付替えます。うね立器の取扱説明書もあわせてお読みください。

**⚠警告　傷害事故防止のために**

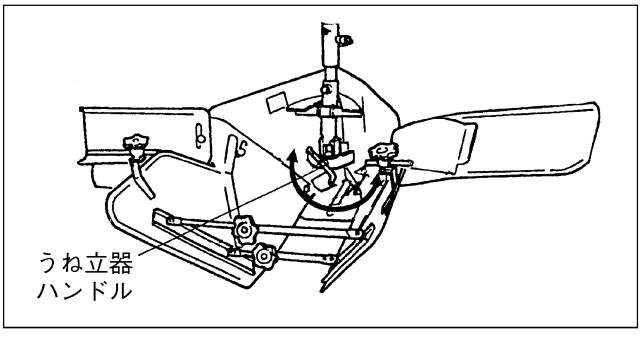
◆エンジン始動まえにPACレバーを《解除》又は，耕深自動ダイヤルを《うね立て》にしないとエンジン始動と同時にロータリが上昇し，傷害事故を引起こすことがあります。

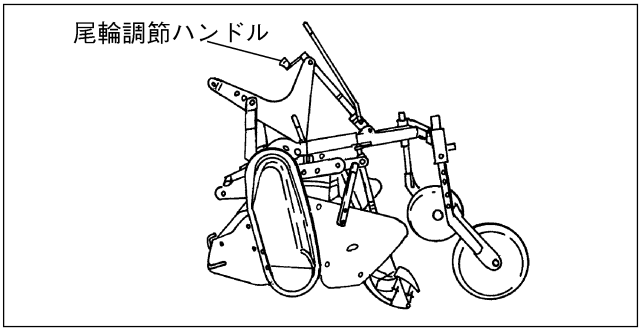
❶　うね立器を取付けて，作業を行うときは次の要領で行います。

⑴　PAC車：エンジン始動まえにPACレバーを《**解除**》の位置に操作します。

⑵　MAC車：エンジン始動まえに耕深自動ダイヤルを《**うね立て**》の位置に設定します。

❷　耕深の調整は尾輪とうね立器ハンドルで行います。




## 3．うね立器の取外しかた

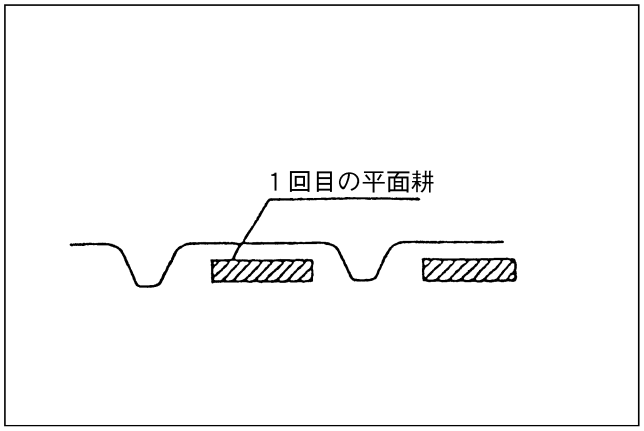
❶　取付けと逆の手順でうね立器を外します。

## 4．うね立て耕法

❶　**無芯うね立て**

⑴　隣接往復耕によりうね間隔耕うん幅までは無芯うね立てができます。

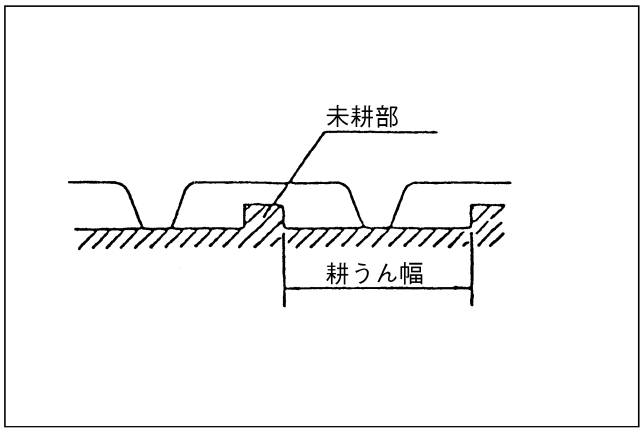
⑵　耕うん幅以上のうね間隔の場合はあらかじめ１うねおきに平面耕を行なった後に未耕地をうね立て耕うんします。




**無芯うね立て**

❷　**有芯うね立て**

うねの中央部に未耕部分を残したままうね立てをしてしまうので能率的な作業方法です。




**有芯うね立て**

# 手入れのしかた

## 1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆点検・整備する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆ロータリを上げて，掃除・点検・整備するときは，油圧の降下速度調節グリップを《固定》の位置にし，ロータリが降りないことを確認し，ロータリの下に固定脚を置いてください。

◆オイル等の油脂類を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。

◆部品又は機械を廃却するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

### 1．定期点検整備表

「**定期点検整備表**」（点検○，交換●）

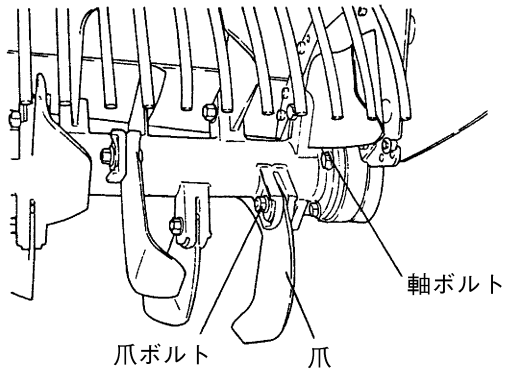
| No. | 点検・整備項目 | 整備内容 | 点検整備（アワメータ表示時間） | | | | | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 毎日作業前点検 | シーズン前 | 50時間毎 | 100時間毎 | 200時間毎 | |
| ❶ | ギヤケース（サイドロータリ） | 点検・補給<br>交換 | | | ○ | | ● | 31・32 |
| ❷ | チェンケース（サイドロータリ） | 点検・補給<br>交換 | | | ○ | | ● | 31・32 |
| ❸ | ヨーク | 点検・給脂 | | ○<br>代かき時 | | | | 32 |
| ❹ | ツールバー支点部 | 点検・給脂 | | ○<br>代かき時 | | | | 31・33 |
| ❺ | 尾輪調節ハンドル | 点検・給脂 | | ○<br>代かき時 | | | | 31・33 |
| ❻ | 尾輪たて軸 | 点検・給脂 | | ○<br>代かき時 | | | | 33 |
| ❼ | 尾輪解除装置 | 点検・給脂 | | ○ | | | | 31・33 |
| ❽ | 耕うん軸ボルト<br>耕うん爪ボルト<br>耕うん爪 | 点検 | ○ | ○ | | | | 31 |

## 2．点検・調整個所

**耕うん軸ボルト**
**耕うん爪ボルト**
**耕うん爪**

**点検**

・ゆるんでいるか確認……増締めします。
・折損変形確認……交換します。

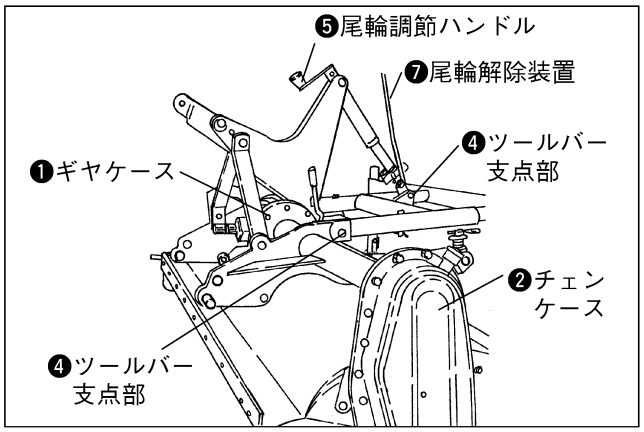



**取扱いのポイント**

- **耕うん爪が変形してロータリ本体に当たっていないことを確認してください。**
- **折損，変形の著しいときは爪を交換してください。**

## 2．給油・注油・給脂のしかた

・工場出荷時は各給油・注油個所にオイルグリスが入っています。
・オイルの点検・交換は，「**作業まえの点検表**」（5ページ）及び「**定期点検整備表**」（30ページ）に従って行います。

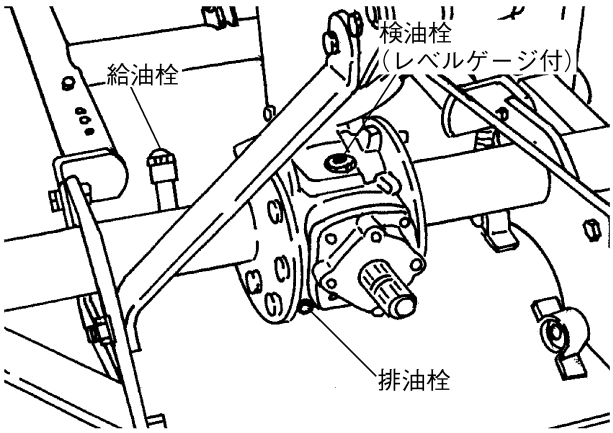



**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆給油・注油・給脂する時は，平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆ロータリを上げて，掃除・点検・整備するときは，油圧の降下速度調節グリップを固定の位置にし，ロータリが降りないことを確認し，ロータリの下に固定脚を置いてください。
◆オイル等の油脂類を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。

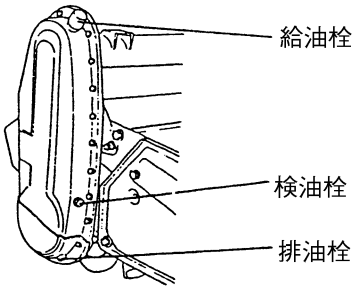
## ❶ ギヤケース

・オ イ ル…… (純正油) またはギヤオイル
API・GL－4級SAE80W，90
・オイル量……1.0ℓ
・給油はロータリを下げて，給油栓から給油します。
・点検はロータリを上げて，検油栓より行います。
・排油はロータリを上げて排油栓から排油します。



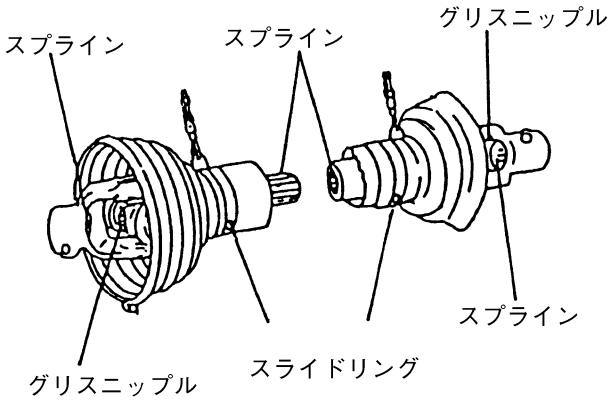

## ❷ チェンケース

・オ イ ル…… (純正油) またはギヤオイル
API・GL－4級SAE80W，90
・オイル量……1.0ℓ
・給油はロータリを下げて，給油栓から給油します。
・点検はロータリを下げて，検油栓よりオイルが出れば規定量（1.0ℓ）です。
・排油はロータリを上げて排油栓から排油します。



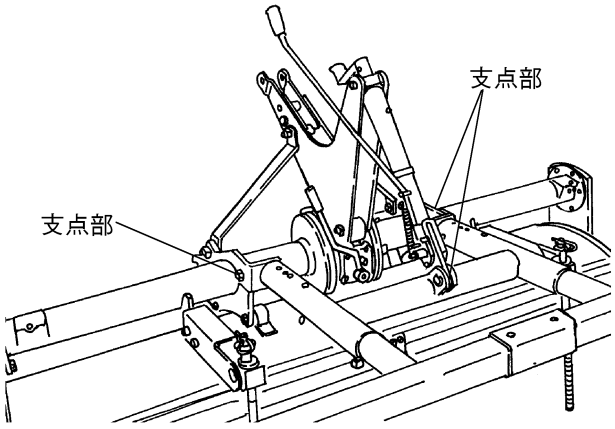

## ❸ ヨーク

・グ リ ス……グリスニップル，スライド部
(スプライン部 / ベアリング部)
・グリス量……適量給脂



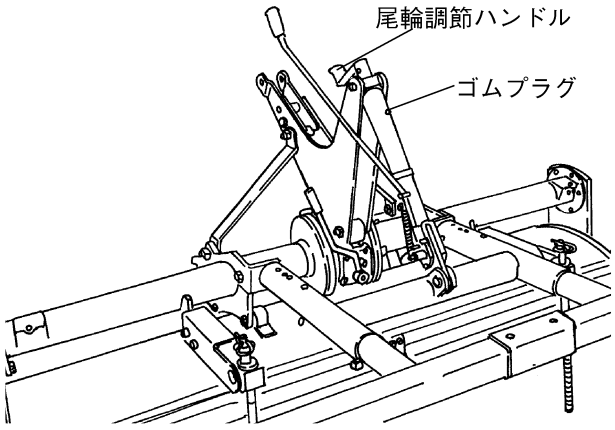
### ❹ ツールバー支点部

・ 純正油 またはギヤオイルAPI・GL－４級 SAE80W，90
・オイル量……適量注油



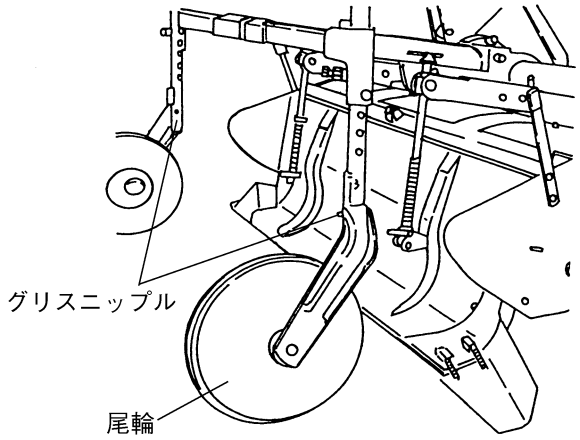

### ❺ 尾輪調節ハンドル

・オ イ ル…… 純正油 またはギヤオイル API・GL－４級SAE80W，90
・オイル量……適量注油
（ゴムプラグを取外し，注油）



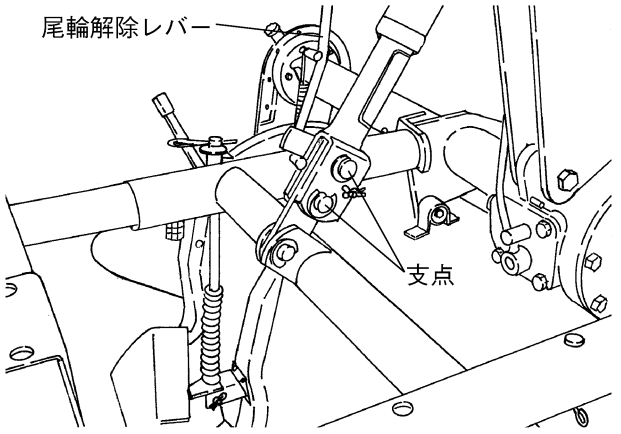

### ❻ 尾輪たて軸

・グ リ ス……グリスニップルより給脂
・グリス量……適量給脂




### ❼ 尾輪解除装置

・オ イ ル…… 純正油 またはギヤオイル API・GL－４級SAE80W，90
・オイル量……適量給油
（レバー支点に）



# 不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆点検・調整・掃除をするときは機械を広い平坦な場所に停車し，エンジンを止め，各部の動きが止まってから行なってください。
◆ロータリを上げて，掃除・点検・整備するときは，油圧の降下速度調節グリップを固定の位置にしロータリが降りないことを確認し，ロータリの下に固定脚を置いてください。

| 状　況 | 原　因（点検個所） | 処　置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| ❶ ロータリを持上げたときにひどい騒音がし，振動も激しく，耕うん軸もなめらかに回らない。 | ・ヨークのベアリンググリス切れ。<br>・３点リンクが適正な寸法関係でない。 | ・グリスアップ<br>・取付け寸法調整 | 32<br>7 |
| ❷ ロータリの位置にかかわらず騒音がする。 | ・ギヤケースのオイルが少ない。<br>・チェンケースのオイルが少ない。<br>・耕うん爪締付ボルトのゆるみ。<br>・耕うん軸締付ボルトのゆるみ。<br>・ヨークのベアリンググリス切れ。 | ・補給または交換<br>・補給または交換<br>・増締め<br>・増締め<br>・グリスアップ | 32<br>32<br>20・21・31<br>31<br>32 |
| ❸ 耕うん軸付近から「**カチャカチャ**」音がする。 | ・耕うん爪締付ボルトゆるみ。<br>・最外側の耕うん爪が曲がり，チェンケース，サイドプレートまたはロータリカバーと干渉。<br>・耕うん軸締付ボルトゆるみ。 | ・増締め<br>・交換<br>・増締め | 20・21・31<br>31 |
| ❹ ロータリの振動が激しい。 | ・耕うん爪の脱落。<br>・耕うん爪折損。<br>・耕うん軸締付ボルトゆるみ。<br>・ヨークのベアリンググリス切れ。<br>・爪の向きが完全に切替わっていない。 | ・補充<br>・交換<br>・増締め<br>・グリスアップ<br>・爪を切替える | 20・21・31・37<br>31<br>32 |
| ❺ 耕うん軸がなめらかに回らない。 | ・ヨークのベアリンググリス切れ。<br>・エンジンがハンチング（むら回転）している。 | ・グリスアップ<br>・エンジン調整 | 32<br>トラクタ取扱説明書 |

| 状　況 | 原　因（点検個所） | 処　置 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| ❻ PACレバーを最《浅》にするとロータリが上がってしまい，下がらない。 | ・PACワイヤの押し過ぎ。（MT266・286・306・336・271・291・311・331装着時）<br>・PACワイヤの引き過ぎ。（MT337・338，GX34装着時）<br>・PACワイヤが錆ついてトラクタ側のリンクを押しつけたままになっている。（MT337装着時）<br>・加圧ロッドのRピンが「H穴～L穴」の間に差込まれて，リヤカバーが下っていない。 | ・PACワイヤ再調整<br>・PACワイヤ交換<br>・RピンをM穴に差込む | 12～16<br>23・24 |
| ❼ PACが効かない。最《浅》にしても深く起こす。 | ・PACワイヤが，ワイヤのアウタ受けから外れている。<br>・PACワイヤ折損・外れ。 | ・正しく装着<br>・PACワイヤ交換・再装着 | 12～16 |

**取扱いのポイント**

- MAC車の自動耕深傾斜制御については，トラクタの取扱説明書の「マイコン装備機の取扱い」の項を参照してください。

# 付　　表

## 1．主要諸元

| ロータリ型式 | | R1532HR5 | R1532HR6 |
|---|---|---|---|
| 装着トラクタ本機 | | MT271／331，MT266／336，MT337，MT338，GO28／34，GO280／340，GO281／341 | |
| 駆動方式 | | サイドドライブ | |
| 装着方式 | | 標準3点リンク | |
| 耕うん幅（mm） | | 1525 | 1625 |
| 耕うん爪 | 本数（本） | 34 | |
| | 回転直径（mm） | 470 | |
| | 取付方式 | スイング式 | |
| 質量（kg） | | 325 | 345 |
| 耕深調節 | | 尾輪 | |

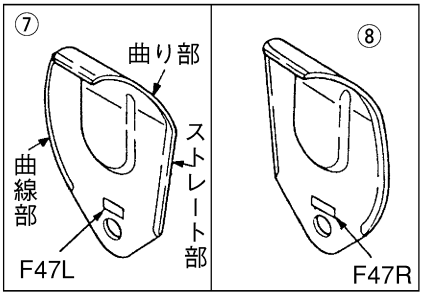
| 爪回転速度<br>エンジン<br>定格回転 | 本機型式 | MT266,<br>MT286 | | MT306 | | MT336 | | MT271,<br>MT291,<br>GO28,<br>GO30 | | MT311,<br>MT331,<br>GO32,<br>GO34 | | GO280,<br>GO300,<br>GO281,<br>GO301 | | GO320,<br>GO340,<br>GO321,<br>GO341 | | MT337 | | MT338,<br>GX34 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | PTO(rpm) 1速 | 164 | (555) | 171 | (581) | 176 | (596) | 170 | (578) | 169 | (573) | 164 | (555) | 163 | (553) | 176 | (598) | 168 | (570) |
| | 2速 | 233 | (791) | 244 | (828) | 239 | (811) | 235 | (799) | 234 | (793) | 226 | (768) | 225 | (764) | 240 | (815) | 232 | (787) |
| | 3速 | 291 | (986) | 304 | (1033) | 298 | (1011) | 312 | (1059) | 310 | (1051) | 300 | (1018) | 298 | (1013) | 319 | (1081) | 376 | (1277) |
| | 4速 | 381 | (1294) | 387 | (1312) | 378 | (1284) | 397 | (1346) | 381 | (1292) | 381 | (1294) | 380 | (1288) | 417 | (1416) | － | － |

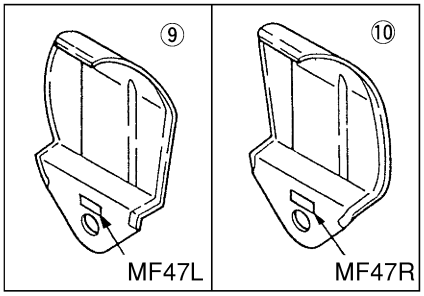
この仕様は改良のため，予告無く変更する場合があります。

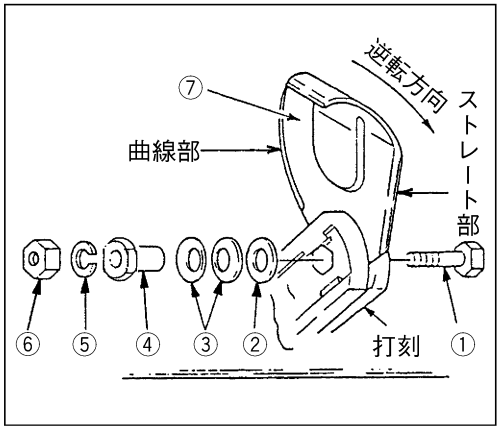
（　）内は本機PTO，回転方向は正転の場合のみ表しています。

# 2．主な消耗部品

**R1532HR5，R1532HR6**




| 見出番号 | 部品番号 | 部 品 名 称 | 台当たり個数 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | R1532HR5，R1532HR6 | |
| ①～⑩ | ――― | タイン一式 | 1 | |
| ① | 2004 4344 000 | ボルト | 34 | |
| ② | 2004 4338 002 | ワッシャ | 34 | |
| ③ | 2004 4337 000 | 皿バネ | 68 | |
| ④ | 2004 4336 002 | カラー | 34 | |
| ⑤ | A360 0101 202 | バネ座金 | 34 | |
| ⑥ | A083 0112 002 | ナット | 34 | |
| ⑦ | 2004 4339 000 | タイン左 | 16 | F47L |
| ⑧ | 2004 4341 000 | タイン右 | 16 | F47R |
| ⑨ | 2004 4342 000 | タインオフセット左 | 1 | MF47L |
| ⑩ | 2004 4343 000 | タインオフセット右 | 1 | MF47R |

# 3．潤滑油について

・オイルを使用する場合は下記の表を参照の上，温度条件に合わせて使用してください。

**ギヤオイル**

| メ　ー　カ | 商　品　名 |
|---|---|
| 三菱農機純正油 | マルチSHPギヤオイル（SAE90） |
| 全農 | クミアイトラクターギヤオイル（SAE80W） |
| JX日鉱日石エネルギー | スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5）<br>スーパーハイポイドギヤ（SAE140，GL－5） |

**取扱いのポイント**

●他メーカのギヤオイルご使用の場合は，APIサービス分類GL－4級以上のオイルをご使用ください。

# お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

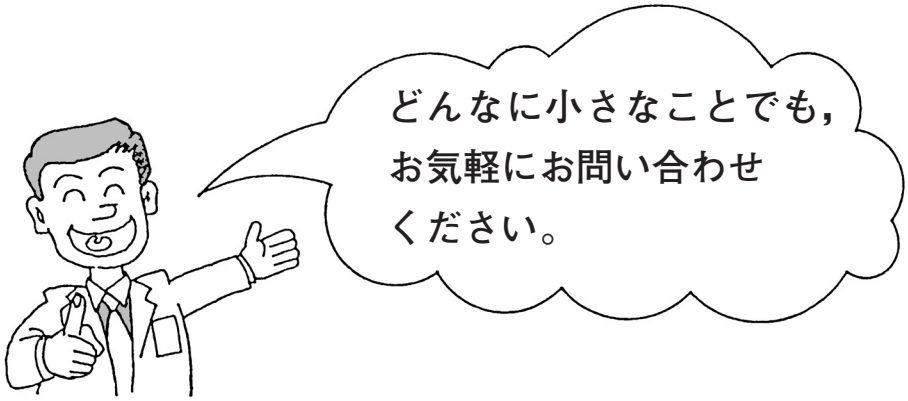
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。




(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)